

2022年3月期 第2四半期

決算説明会

長瀬産業株式会社

2021年11月22日

■ 2022年3月期第2四半期決算概要及び通期見通し	P3~P18
■ サステナビリティ推進について	P19~P22
■ Prinovaグループの成長戦略について	P23~P38

2022年3月期第2四半期決算概要及び通期見通し

連結損益計算書

▶ 売上総利益

- ・第1四半期に続いて全セグメントで増益となり、売上総利益以下すべての段階利益で第2四半期累計の過去最高値を更新
- ・特に自動車、樹脂およびエレクトロニクス関連ビジネス、Prinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスが好調

▶ 営業利益

- ・売上総利益の増加を受けて、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期と比べて営業利益は大幅に増益

▶ 四半期純利益

- ・政策保有株式の売却益が減少するも、経常利益までの大幅な増益を受けて四半期純利益も増益

(単位:億円)

	20/09	21/09	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	2,863	3,737	+ 873	131%	—	—
売上総利益	537	687	+ 149	128%	1,300	53%
<利益率>	18.8%	18.4%	△0.4pt	—	—	—
販売費及び一般管理費	448	492	+ 43	110%	1,000	—
営業利益	89	194	+ 105	218%	300	65%
経常利益	96	204	+ 107	211%	310	66%
親会社株主に帰属する四半期純利益	101	146	+ 44	144%	225	65%
US\$レート (期中平均)	@ 106.9	@ 109.8	@ 2.9 円安		@109.5	
RMBレート (期中平均)	@ 15.3	@ 17.0	@ 1.7 円安		@16.9	

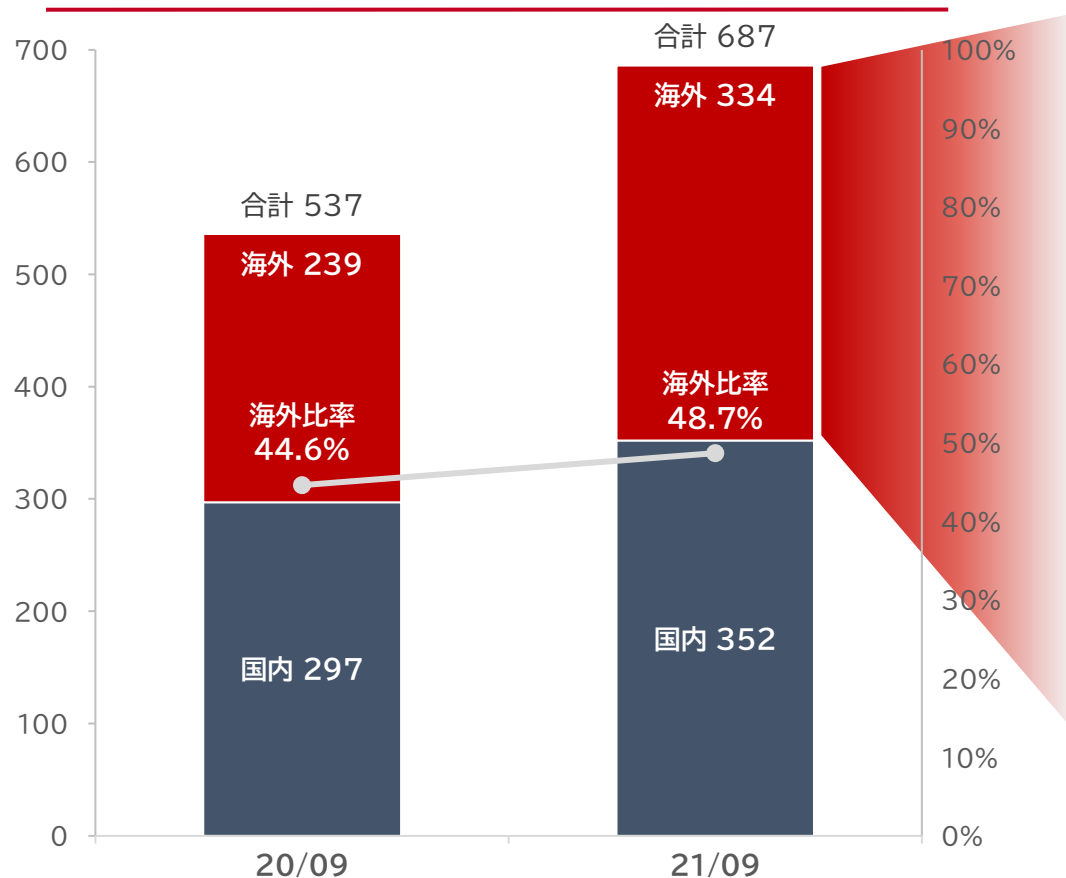
※収益認識基準適用による売上高および売上原価の相殺額 20/09 △947億円 21/09 △1,171億円

※為替の影響【売上総利益】+10億円【営業利益】+3億円

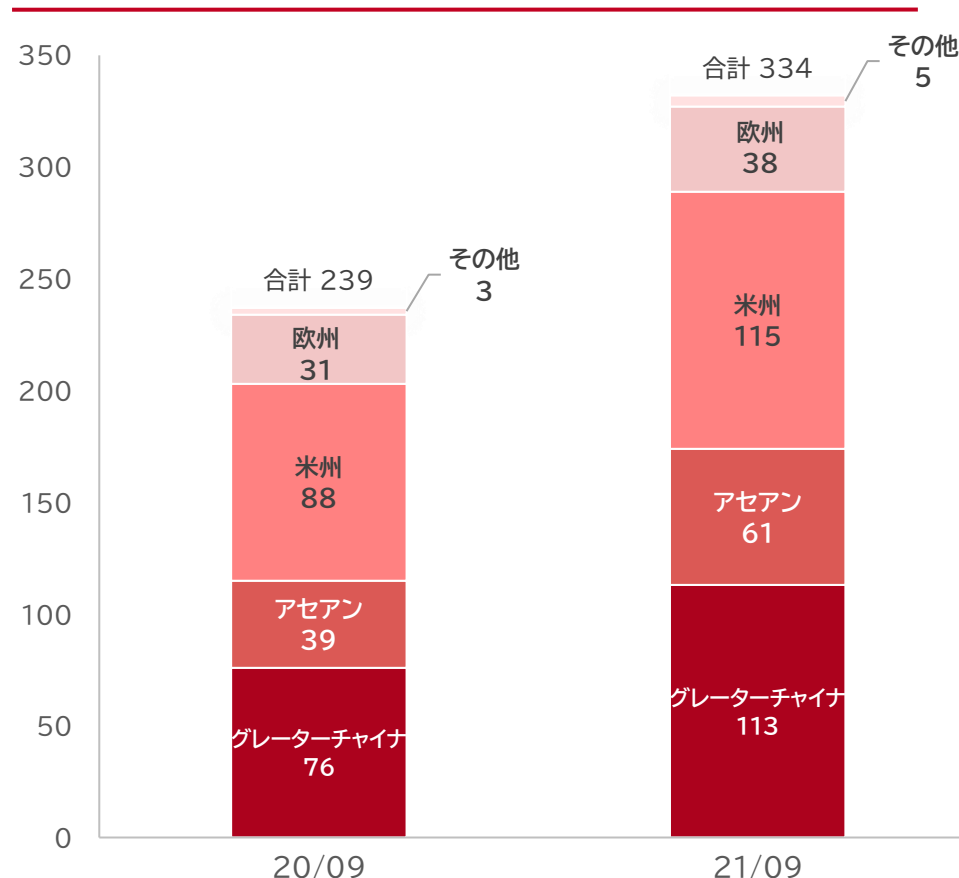
所在地別 売上総利益

- ▶ 国内および海外ともに増益
- ▶ 国内は特に自動車関連ビジネス、モバイル機器・ディスプレイ用途向けのエレクトロニクス関連ビジネスが好調
- ▶ 海外はグレーターチャイナ、アセアンを中心とした主にOA・ゲーム機器関連向けの樹脂ビジネスや、欧米におけるニュートリション関連ビジネスが好調

国内・海外売上総利益（億円）



海外売上総利益の地域別内訳（億円）



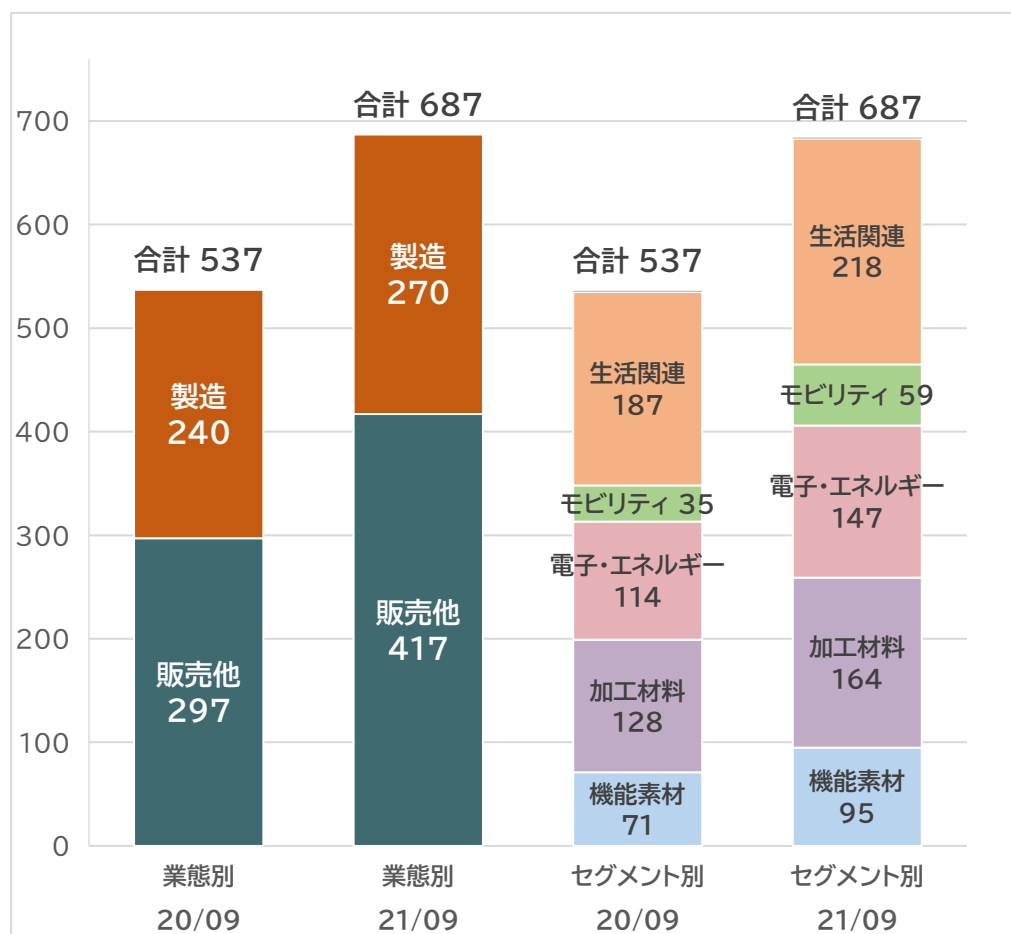
※2022年3月期より従来の仕向け地別の海外売上高に代えて、連結会社の所在地別に集計した売上総利益を地域別情報として開示しております
 ※国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます

業態・セグメント別売上総利益 2期比較

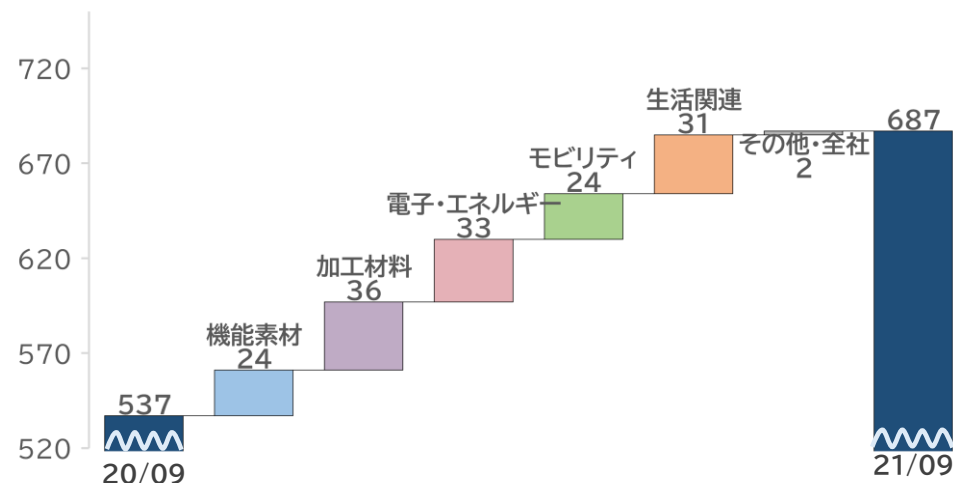
- ▶ 全セグメントにおいて増益となり、過去最高の第2四半期累計売上総利益
- ▶ 加工材料は樹脂ビジネスにおける堅調な需要と、市況高騰の影響を受けて収益性が改善
- ▶ 生活関連はPrinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスの好調や、化粧品素材の販売好調を受けて増益

※各セグメント数値の比較情報は2021年4月1日付けで実施した事業区分の変更による影響を反映したもの

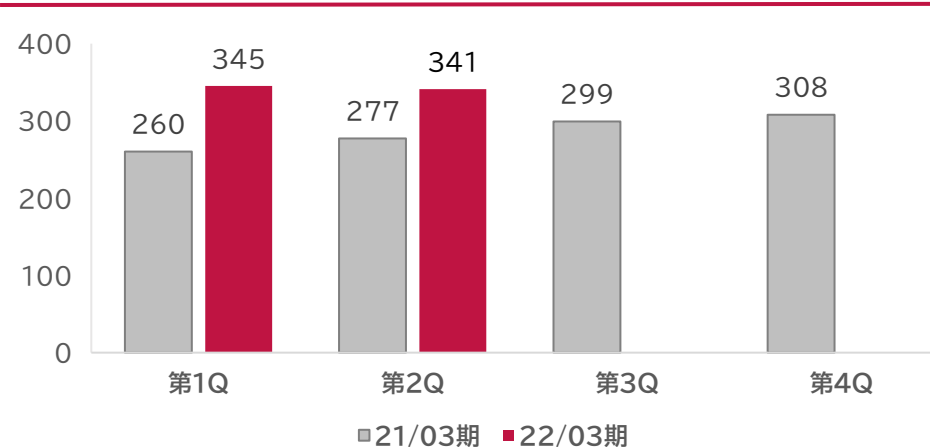
業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



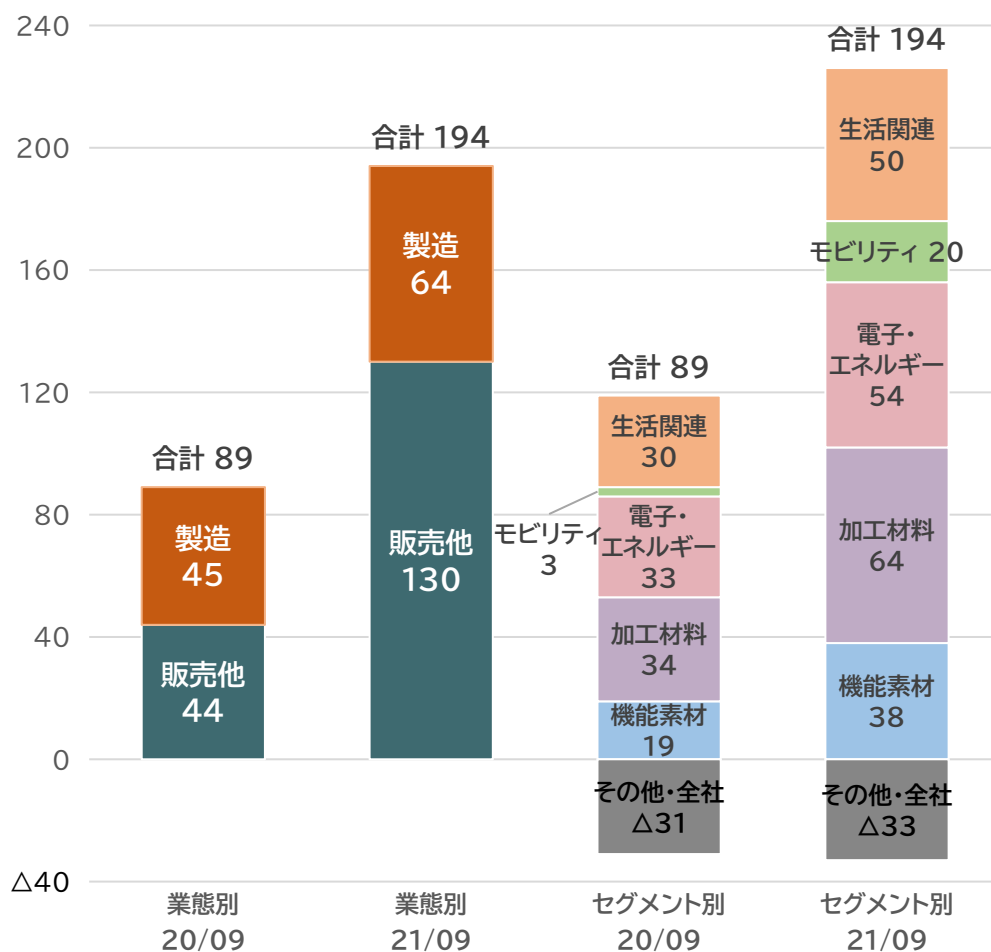
売上総利益 四半期推移 (億円)



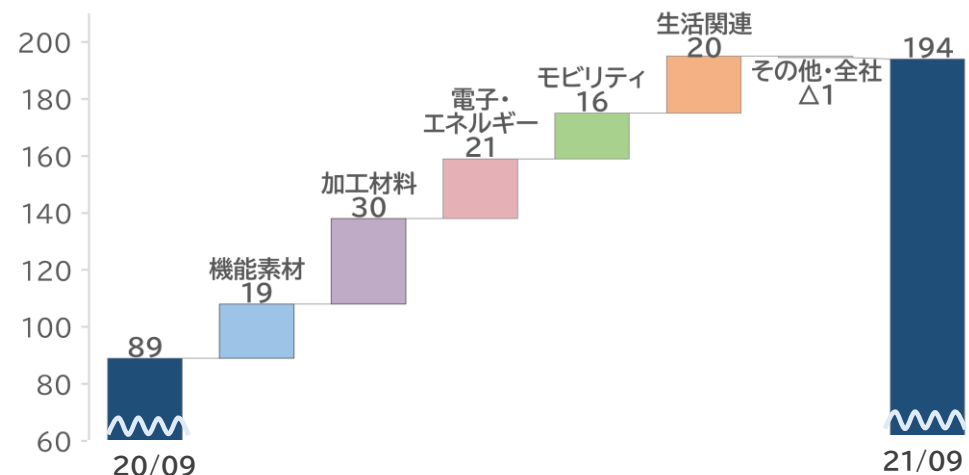
業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 全事業セグメントの売上総利益の増加を受けて、営業利益は第1四半期に続き、過去最高の第2四半期累計営業利益を更新
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施
- ▶ グループのバイオ知見を結集し、持続可能な事業創出を推進するための全社開発組織としてNAGASEバイオテック室を創設し体制を強化

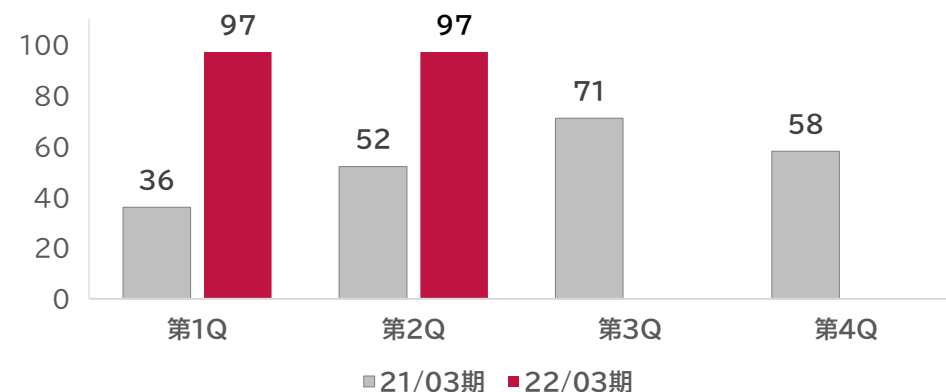
業態・セグメント別 営業利益 (億円)



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



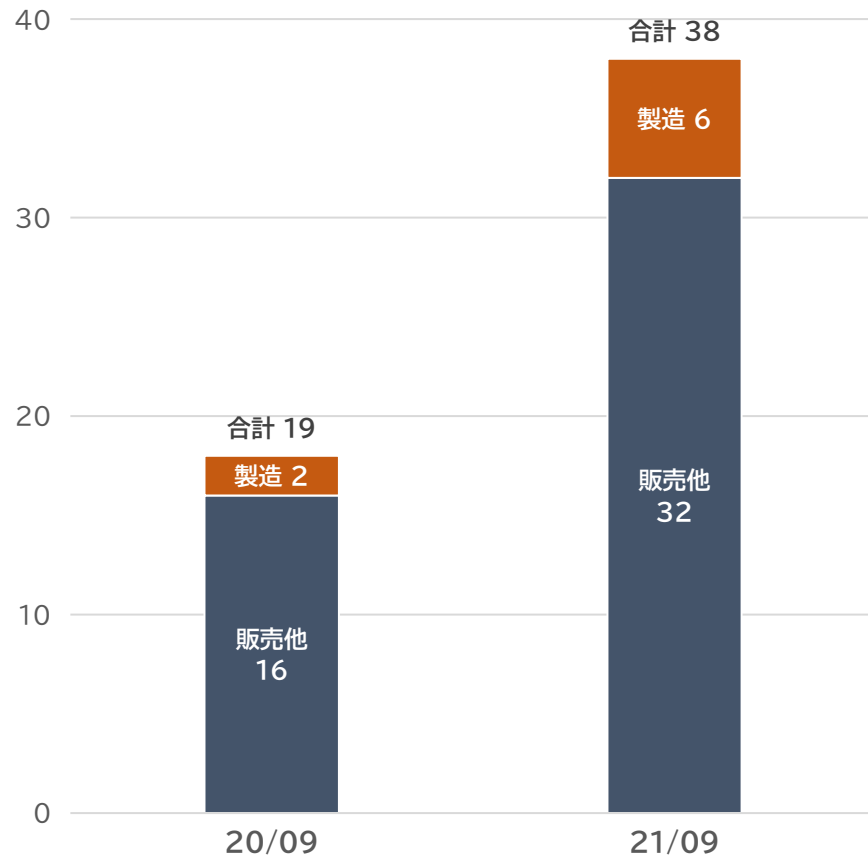
営業利益 四半期推移 (億円)



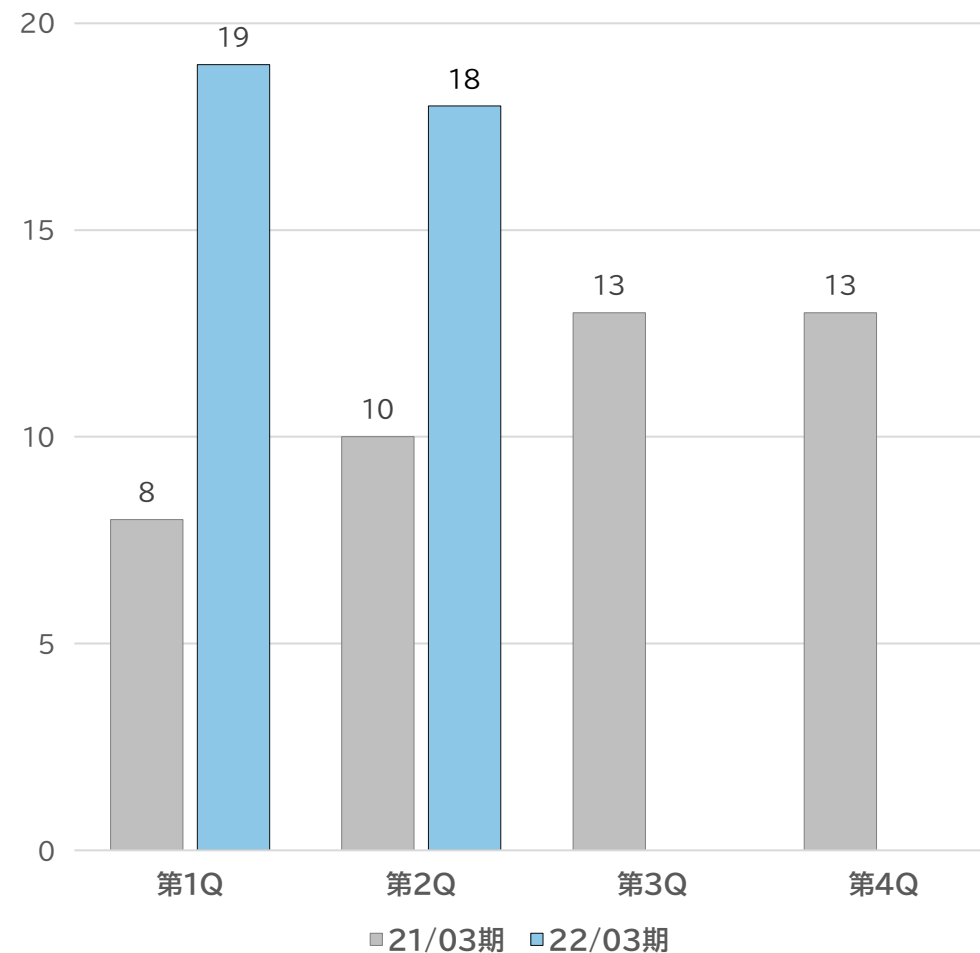
セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 自動車生産台数の増加を受けて塗料・ウレタン原料や、加工油剤関連・樹脂関連の原料販売が増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けのエレクトロニクスケミカル等の販売が堅調
- ▶ 営業利益は自動車関連ビジネスを中心に新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期と比べて、増加

業態別 営業利益 (億円)



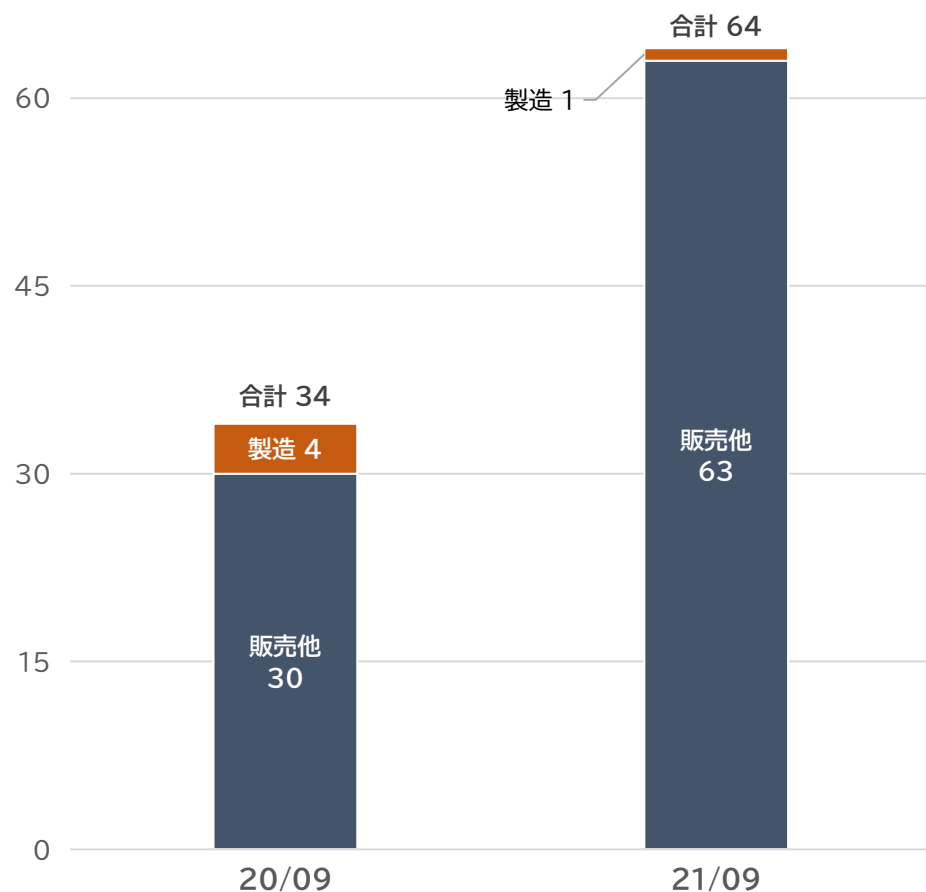
営業利益 四半期推移 (億円)



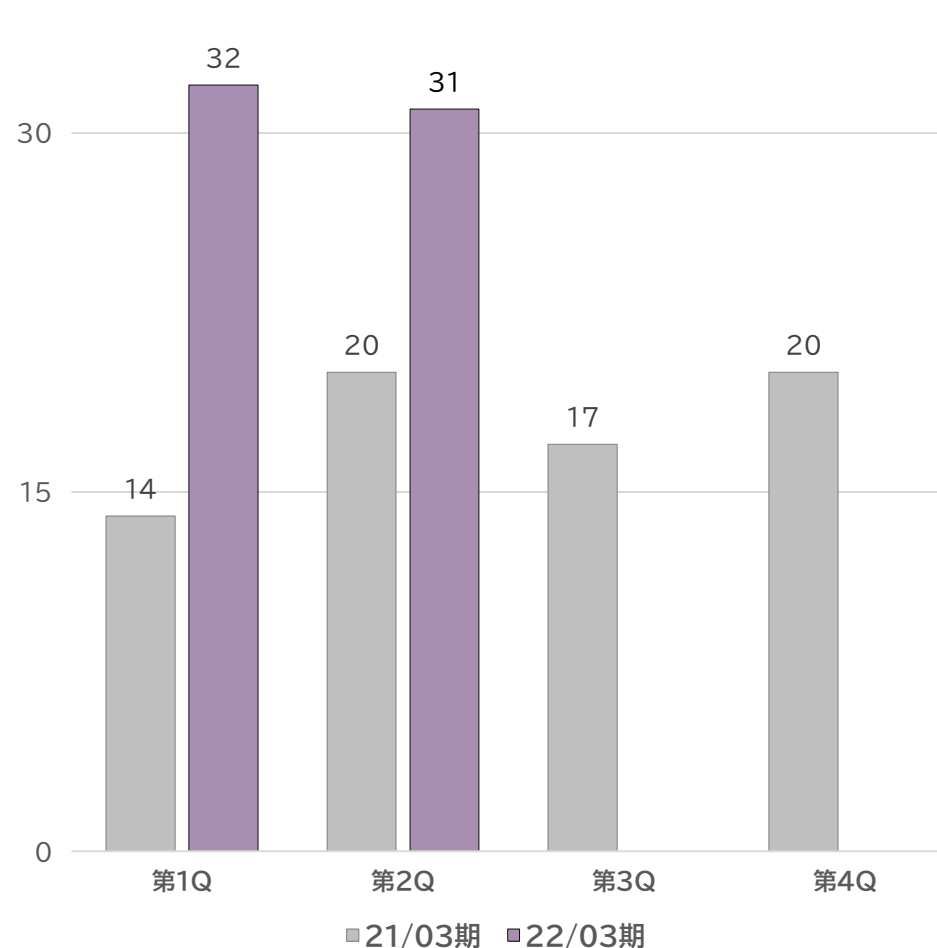
セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ 主にOA・ゲーム機器業界向けへの樹脂ビジネスは国内および中国を中心とした海外での需要増加、市況の高騰等の影響により好調
- ▶ 情報印刷関連材料の販売は前期下期からの市況下落の影響等により引続き不調
- ▶ 営業利益は国内外の樹脂ビジネスの需要の好調、市況高騰による収益性の改善影響が大きく、前年同期と比べて大きく増益

業態別 営業利益 (億円)



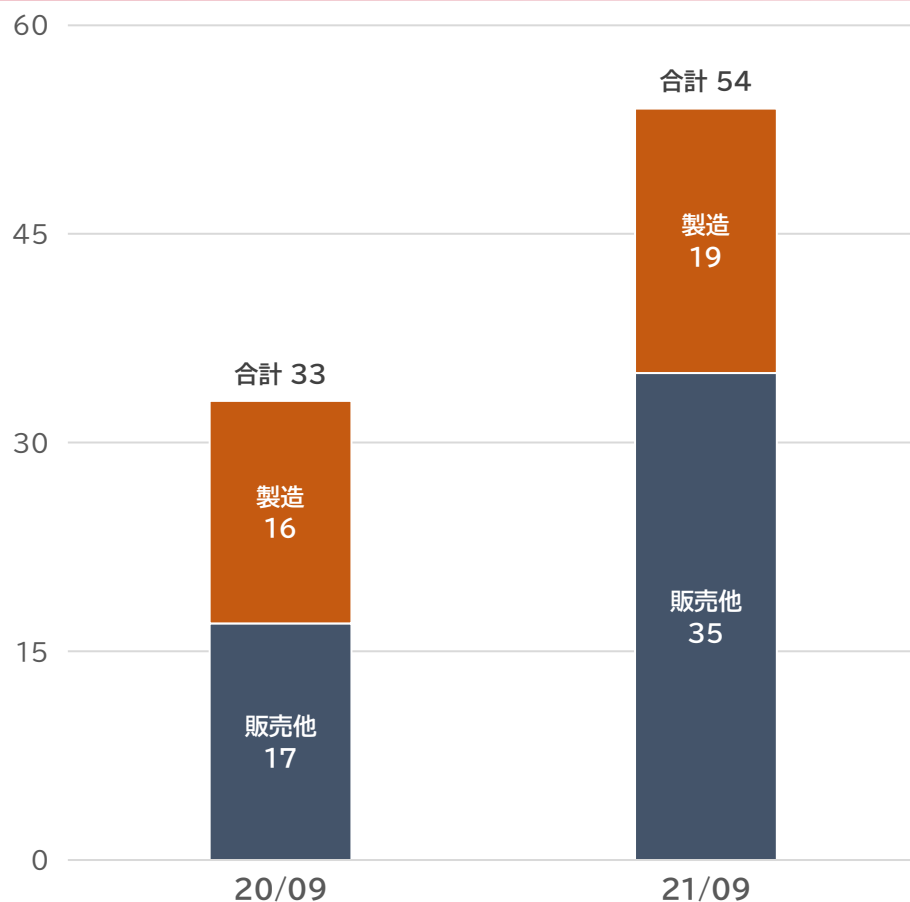
営業利益 四半期推移 (億円)



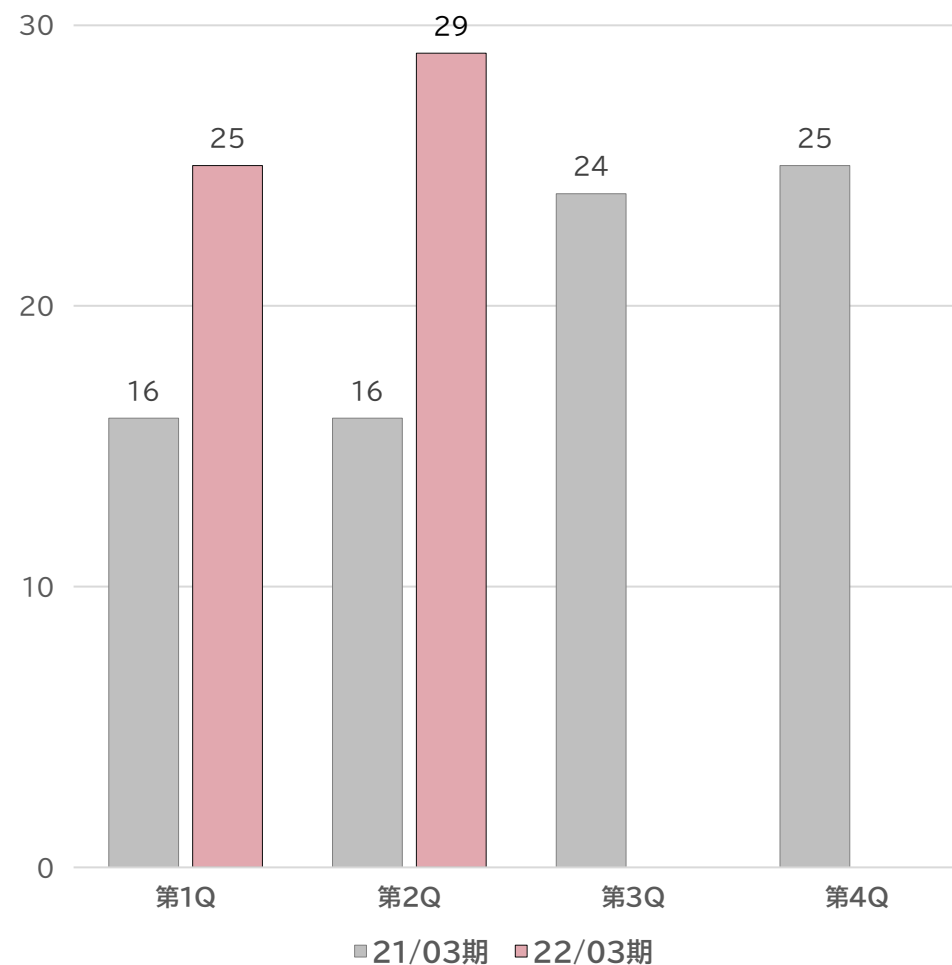
セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ ディスプレイ関連材料や、半導体用途向けの精密加工関連の販売が増加
- ▶ モバイル機器および半導体用途等を中心とした変性エポキシ樹脂関連の販売が増加
- ▶ 次世代通信関連ビジネスの体制を整備、開発費用先行だが中期的な成長を目指す

業態別 営業利益 (億円)



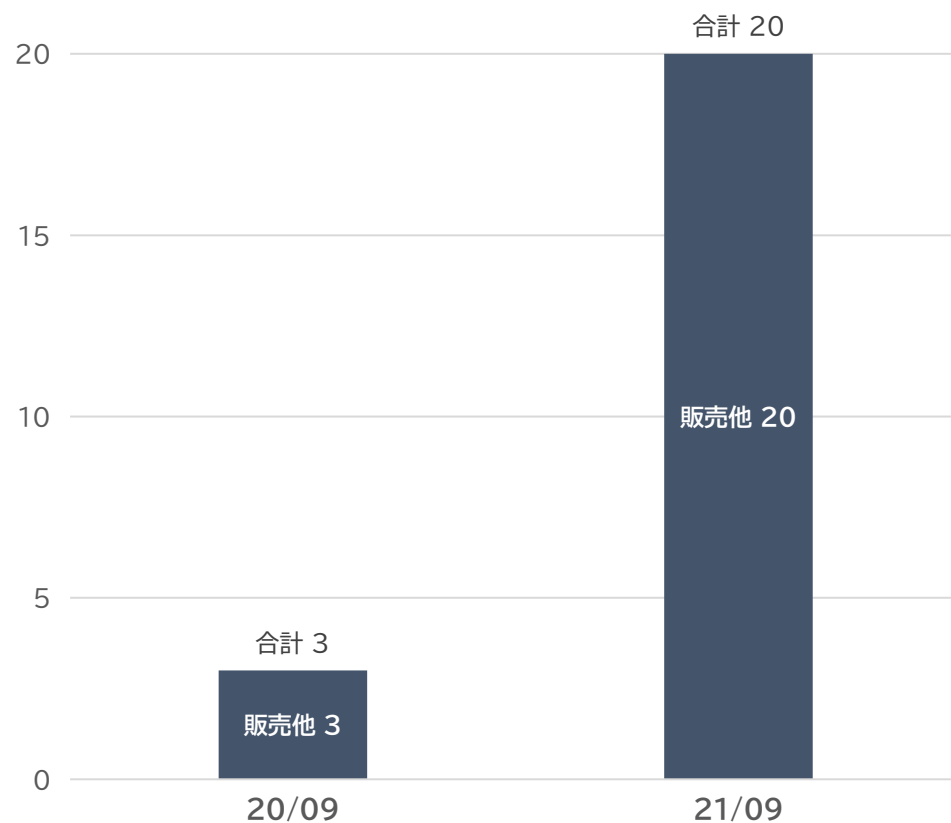
営業利益 四半期推移 (億円)



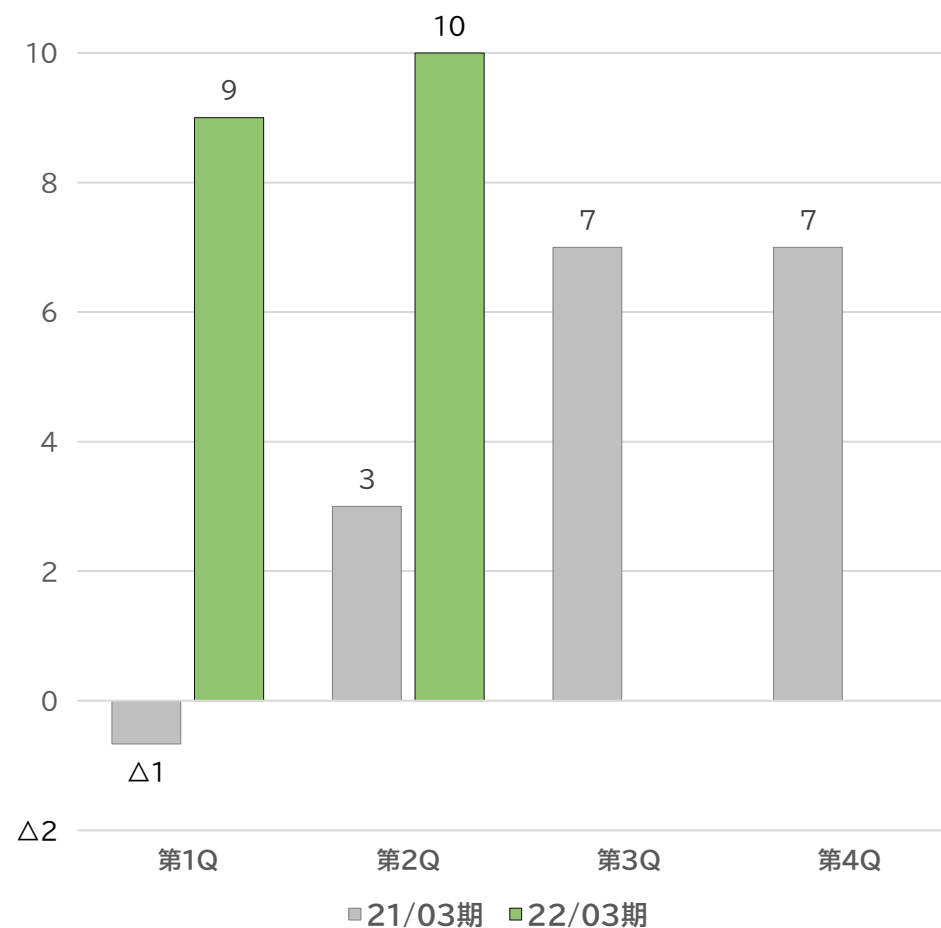
セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 国内およびアセアンを中心とした海外における樹脂ビジネスの販売が増加し、市況の高騰により収益性も改善
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 自動車生産台数の回復を受けて、前年同期と比べて大きく増益

業態別 営業利益 (億円)



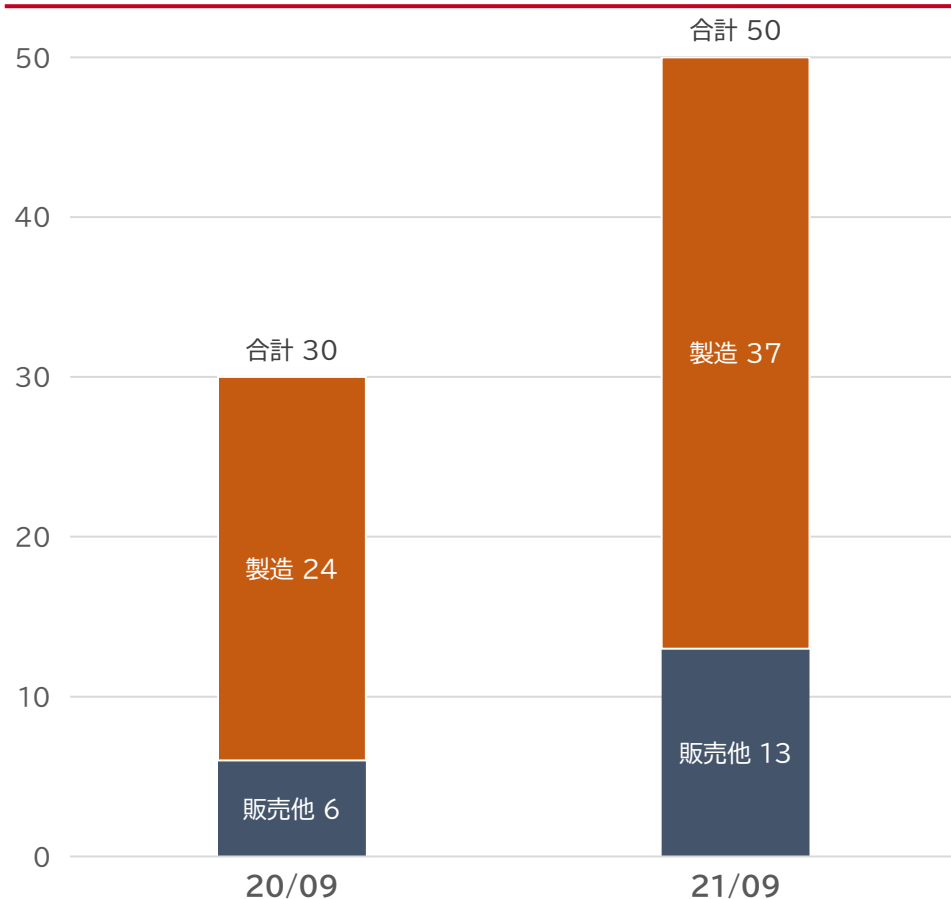
営業利益 四半期推移 (億円)



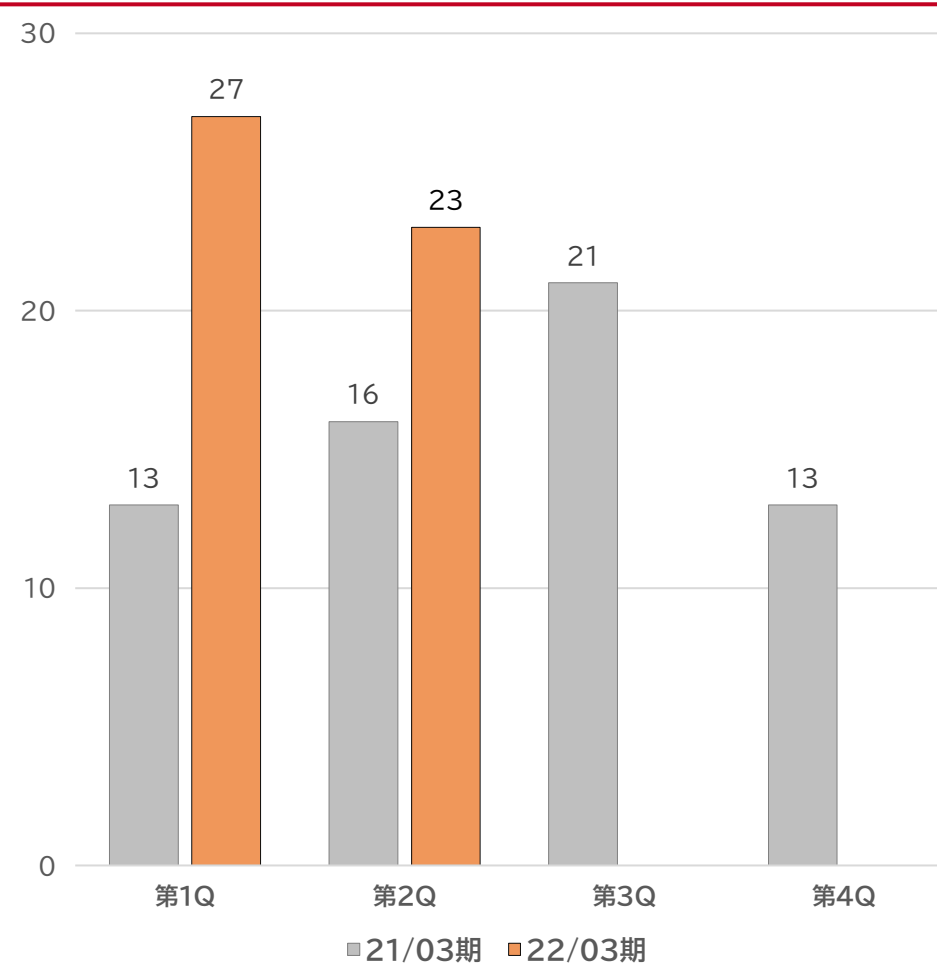
セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループのニュートリション関連ビジネスは素材販売、製造加工ともに好調に推移
- ▶ トレハ®等を中心とした食品素材、AA2G®等を中心とした香粧品素材、医薬品中間体・原料関連の販売が増加
- ▶ 全体として新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期と比べて大きく増益

業態別 営業利益 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)



主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：主にモバイル機器・半導体向けの変性エポキシ樹脂関連、ディスプレイ用途のフォトリソ材料等の販売が好調に推移し、増益
- ▶ 林原：食品素材トレハ®の需要や、化粧品素材AA2G®の需要の回復を受け、増益
- ▶ Prinovaグループ：米国経済の回復を受けたニュートリション素材の販売好調の維持および製造加工の復調もあり、増益

(単位:億円)

		20/09	21/09	増減額	前年同期比
ナガセケムテックス	売上高	120	146	25	121%
	売上総利益	37	47	10	127%
	営業利益	14	23	9	164%
林原	売上高	114	130	15	114%
	売上総利益	49	54	4	109%
	営業利益	21	23	1	108%
	のれん等償却費	15	15	-	100%
	償却費負担後営業利益	5	7	1	127%
Prinova グループ	売上高	444	557	113	126%
	売上総利益	85	106	21	126%
	営業利益	25	37	12	148%
	のれん等償却費	9	9	△0	100%
	償却費負担後営業利益	15	27	12	180%

連結貸借対照表

- ▶ 流動資産：好調な業績を受けて売掛債権、棚卸資産が増加(運転資本が増加)
- ▶ 純資産：投資有価証券の時価下落や配当金の支払い・自己株式の取得はあったが、四半期純利益の計上により株主資本は増加
- ▶ NET D/Eレシオ：運転資本増加による資金需要で短期借入が増加し0.28倍と上昇

(単位:億円)

	2021年3月末	2021年9月末	前年度末差	主な増減
流動資産	4,017	4,415	398	
（現金及び現金同等物）	492	456	△35	
（売掛債権）	2,425	2,607	181	
（棚卸資産）	972	1,218	246	
固定資産	2,388	2,371	△17	
（投資有価証券）	937	904	△32	
資産の部合計	6,405	6,786	381	
流動負債	2,061	2,431	370	短期借入金・CP+275、1年内償還社債+100
固定負債	960	858	△101	
負債の部合計	3,021	3,289	268	
株主資本	2,847	2,928	81	自己株式△35
その他の包括利益累計額	449	468	19	為替換算調整勘定+46、有価証券評価差額△25
非支配株主持分	87	99	12	
純資産の部合計	3,384	3,497	112	
運転資本	2,198	2,554		
自己資本比率	51.5%	50.1%		
NET D/Eレシオ	0.23	0.28		

連結キャッシュ・フロー

- ▶ 営業活動によるCF：全般的に好調な業績により運転資本が増加し、136億円の純支出
- ▶ 投資活動によるCF：投資有価証券売却による収入等もあったが、有形固定資産を中心に投資を実施し49億円の純支出
- ▶ 財務活動によるCF：長期借入金の返済、自己株式取得等もあったが、運転資本の増加に伴う短期借入金の増加等により144億円の純収入

(単位:億円)

	20/09	21/09
営業活動によるキャッシュ・フロー	132	△136
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25	△49
フリーキャッシュ・フロー	106	△185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△236	144
換算差額	△4	3
現金及び現金同等物の増減額	△134	△38
有形・無形資産償却費	66	68
固定資産投資	△86	△75
運転資本の増減	22	△327

2022年3月期 通期業績見通し

- ▶ 上期は樹脂、自動車関連、エレクトロニクス関連ビジネス、Prinovaグループの業績等が当初想定よりも好調に推移
- ▶ 下期は樹脂市況の軟化や巣ごもり需要の一巡による需要減少、半導体、部品等の供給不足に起因する自動車生産台数の減少の懸念、経済活動の正常化に伴う経費執行増加等の影響により上期比減益見込み
- ▶ 下期における減速は見込まれるが、通年では売上総利益以下すべての段階利益で前年度比増益見込み
(2021年8月公表の修正業績見通しから変更無し)

(単位:億円)

	21/03 実績	22/03 見通し	増減額	前期比
売上総利益	1,146	1,300	153	113%
販売費及び 一般管理費	926	1,000	73	108%
営業利益	219	300	80	137%
経常利益	228	310	81	136%
親会社株主に帰属する 当期純利益	188	225	36	119%
US\$レート (期中平均)	@ 106.1	@ 109.5		
RMBレート (期中平均)	@ 15.7	@ 16.9		

2022年3月期 セグメント別業績見通し

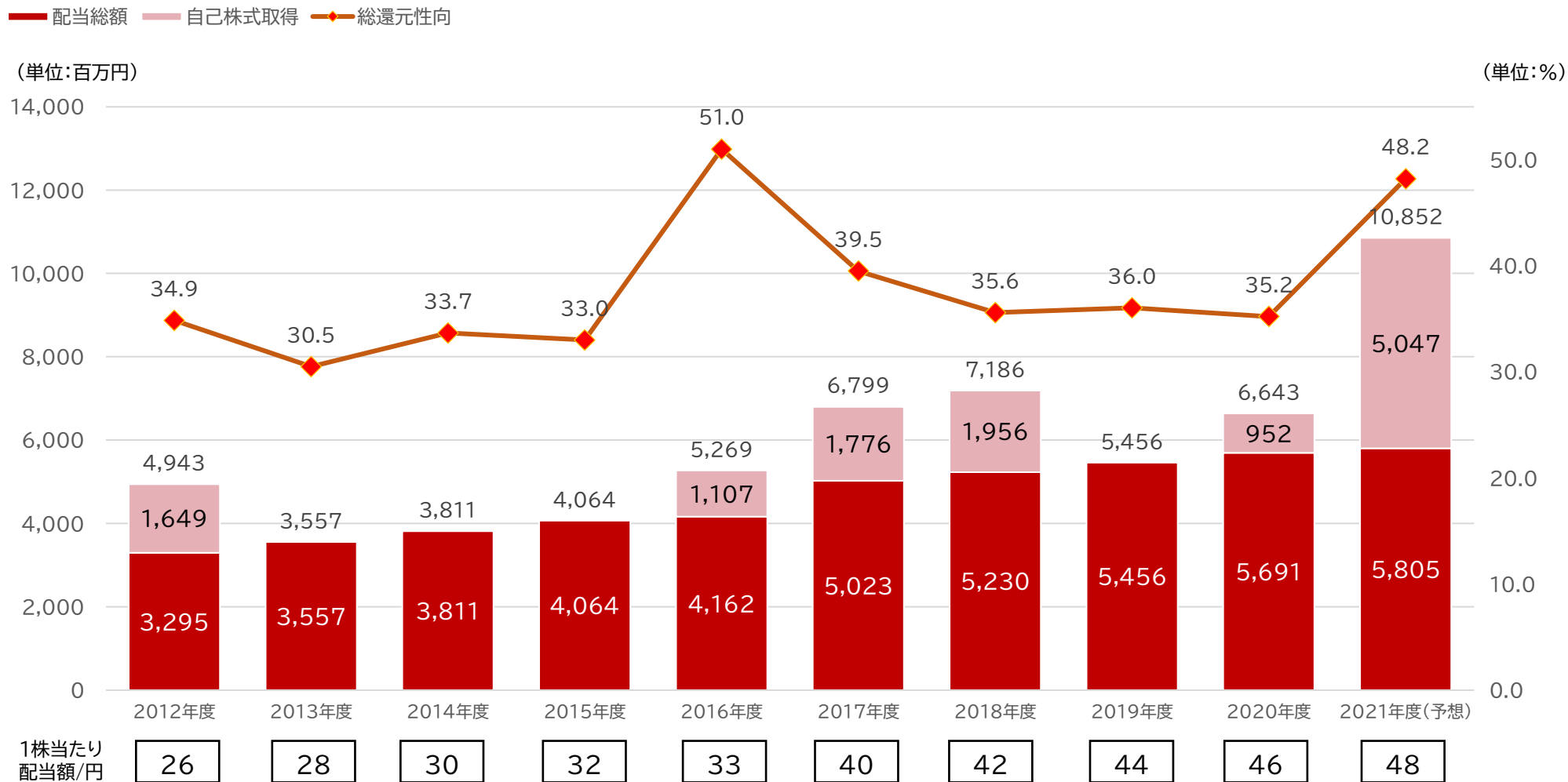
▶ 樹脂市況の軟化、巣ごもり需要の一巡による需要減少、半導体の供給不足、自動車生産台数の減少懸念、経済活動正常化に伴う経費執行増加等の影響により全事業セグメントにおいて 下期は上期比減益を見込むが、通年では全事業セグメントにおいて前年度比増益見込み（2021年8月公表の修正業績見通しから変更無し）

(億円)

		21/3 実績	22/3 通期見通し	増減額	前期比
機能素材	売上総利益	155	177	21	114%
	営業利益	47	66	18	140%
加工材料	売上総利益	268	295	26	110%
	営業利益	73	96	22	131%
電子・エネルギー	売上総利益	255	274	18	107%
	営業利益	84	88	3	105%
モビリティ	売上総利益	89	112	22	125%
	営業利益	18	34	15	184%
生活関連	売上総利益	374	437	62	117%
	営業利益	65	93	27	143%
その他・全社	売上総利益	1	5	3	271%
	営業利益	△ 68	△ 77	△ 8	112%
連結合計	売上総利益	1,146	1,300	153	113%
	営業利益	219	300	80	137%

株主還元状況

- ▶ 当期:中間配当金24円、期末配当金24円の年間配当金48円を予定(12期連続増配見通し)
- ▶ 自己株式取得60億円(2021年2月8日~2022年2月4日)を実行中(2021年9月末までに44億円取得済)



※ 2017年度の配当金には、特別配当金5円を含んでおります。
 ※ 2021年度の期末配当金は、2022年6月開催予定の第107回定時株主総会に附議予定です。

サステナビリティ推進について

サステナビリティ推進体制の構築

- ・グループ全体でサステナビリティを推進するための体制を構築
- ・コーポレートプロジェクトとして、従業員エンゲージメント向上・カーボンニュートラルプロジェクトを発足

取締役会

委員会/プロジェクト

2020年6月設置

サステナビリティ推進委員会

※委員長:代表取締役社長 朝倉

2021年9月発足

**従業員エンゲージメント向上
プロジェクト**

※オーナー:代表取締役社長 朝倉

2021年7月発足

**カーボンニュートラル
プロジェクト**

※オーナー:取締役 鎌田

コーポレートプロジェクト
NAGASEグループ全体が取り組む課題

業務執行組織

2021年4月設置

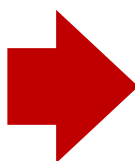
**コーポレートコミュニケーション本部
サステナビリティ推進室**

- ▶排出量削減
- ▶LCA可視化
- ▶フードシステムズ
- ▶サーキュラーエコノミー
- ▶ESG評価機関対応

個別プロジェクト
関係組織が協業して取り組む課題

コーポレートプロジェクト

	従業員エンゲージメント向上プロジェクト	カーボンニュートラルプロジェクト
マテリアリティ	【多様な人財の活用、職場環境と企業文化の提供】 グループとして多様な背景を持つ従業員が、 お互いを尊重し、活性化し合う職場環境の提供と 企業文化の醸成	【社会・環境課題の解決とグローバルイゼーション】 気候変動、食料・水不足等、安心・安全を脅かす 課題の解決
目的	従業員エンゲージメント=会社(組織)と従業員が相互 に理解し合い、お互いに高め合う状態と定義 ①従業員エンゲージメントの理解向上・浸透 ②会社(組織)と従業員間のオープンな コミュニケーションの促進 ③従業員エンゲージメント向上の障害を特定し、改善・排除	カーボンニュートラルについて、 長期的(2050年、2030年、2025年)な方針案 (目標値・施策など)の策定が必要
背景	外部環境の変化・個人の価値観の多様化・人財の 獲得競争激化により重要性が格段に増加	外部環境が大きく変化し、持続的な企業価値向上 にあたっては、気候変動対応が必須。カーボン ニュートラルに向けた具体的な削減方針が必要
進捗	長瀬産業の全従業員に対し、 <u>エンゲージメントサーベイ実施</u>	今期中に <u>TCFDへの賛同表明</u> <u>長期目標の設定と開示を予定</u>

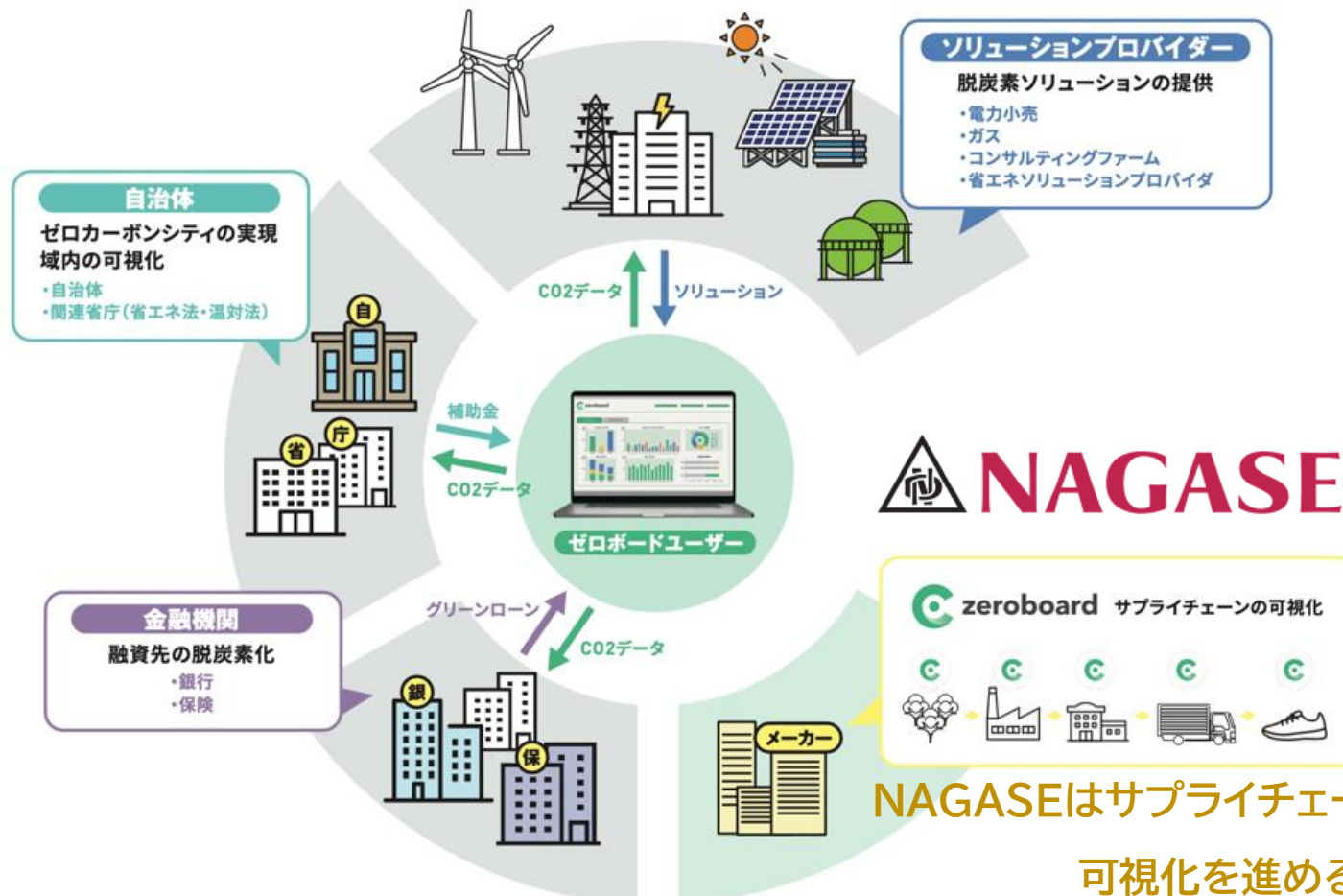


マテリアリティ（重要課題）に基づき、
ACE 2.0期間中の活動方針と非財務目標のKPI設定に向け取組み中

サプライチェーンにおける排出量の可視化/ゼロボード社と業務提携

- CO2排出量の算出・可視化クラウドサービスを手掛ける(株)ゼロボードと業務提携
- 当社は本サービスの販売、顧客ニーズの収集、CO2排出量削減ソリューションの開発・提供などを実施

様々なステークホルダーと協業し、社会全体の可視化と削減を目指す



NAGASE

**NAGASEはサプライチェーンにおける
可視化を進める**

Prinovaグループの成長戦略について

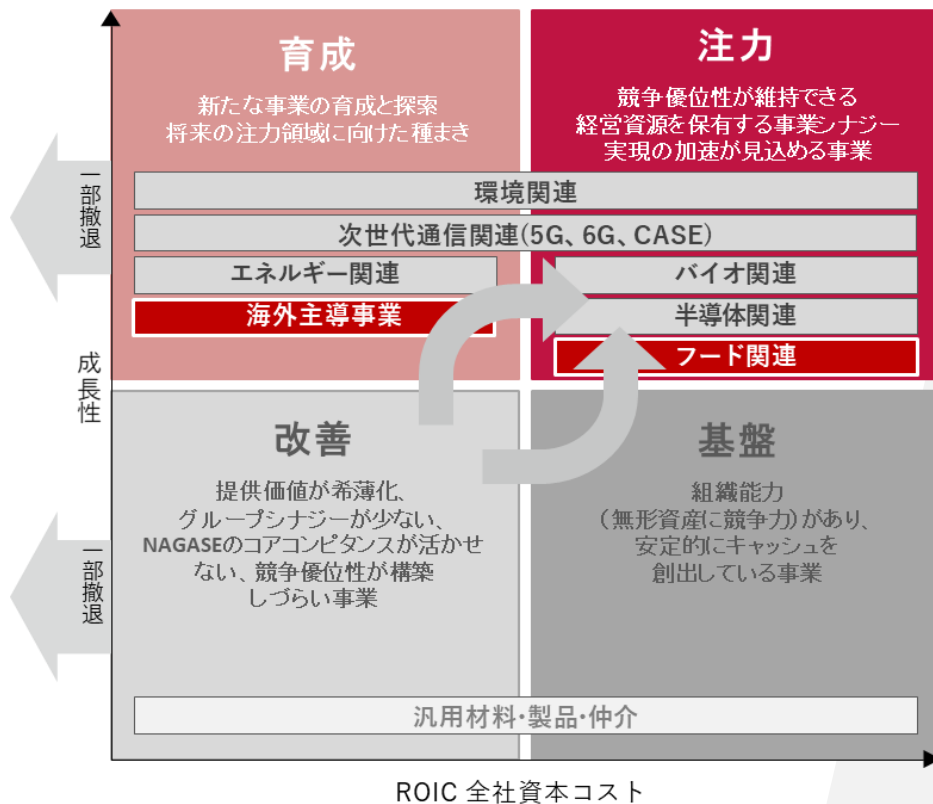
中期経営計画 ACE 2.0 Prinovaグループの位置付け	P25
Prinovaグループの会社概要	P26
Prinovaグループの強み	P27
Prinovaグループの事業概要	P28
ビジネスモデル(サプライチェーン)	P29
買収～PMI～現在までの状況	P30
NAGASEグループ力の活用	P31
ACE 2.0 成長戦略	P32～P38

- ・ フード関連事業は **ACE 2.0** における注力領域の一つである。
- ・ 海外主導事業への取り組みも将来の成長に向けた重要な施策である。

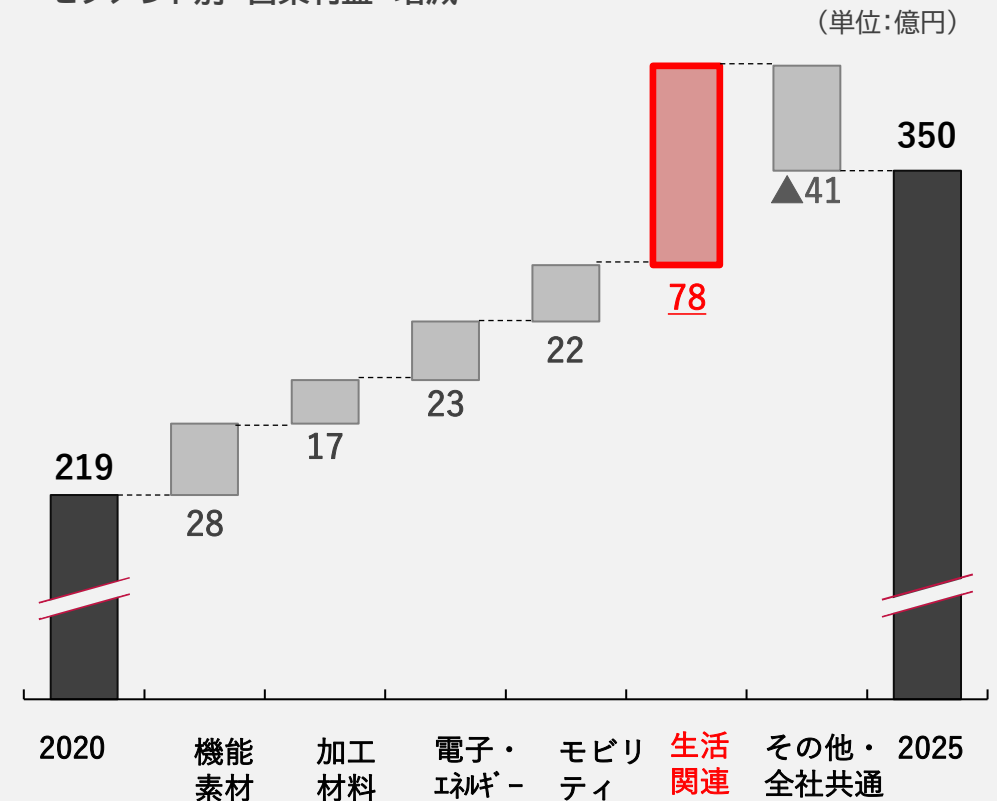
- ・ フード関連事業が含まれる生活関連セグメントの成長においてその中核となる会社が

Prinovaグループ

事業ポートフォリオの考え方



セグメント別 営業利益 増減

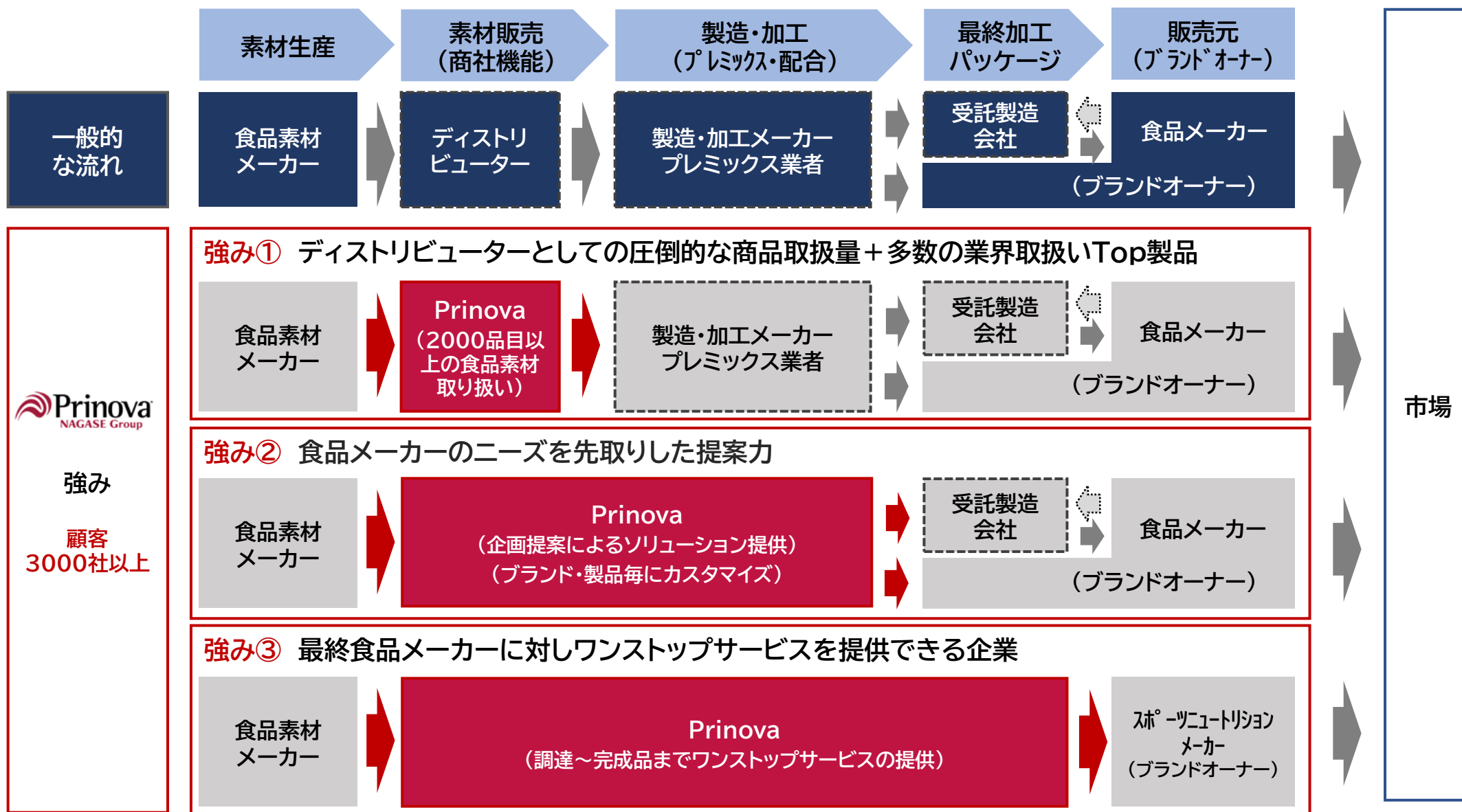


Prinovaグループの会社概要

会社名	Prinova Group LLC
本社	米国イリノイ州(シカゴ近郊)
創業	1978年
事業規模	売上高：866億円 営業利益：47億円 (2020年12月期)
従業員	約1,200名(9月末現在)
製造拠点	米国(4)、英国(1)、中国(1)
販売拠点	米国、英国等 11カ国
取扱品目	食品成分(ビタミン、アミノ酸等) フレーバー素材、プレミックス及び 受託製造(スポーツニュートリション)
事業内容	食品素材・フレーバーの販売、 プレミックス品の製造・加工、 受託製造



- ・ グローバルトップクラスのニュートリション素材ディストリビューター
- ・ プレミックス加工・フレーバー加工・最終製品OEM製造機能を保有（米・欧・中）



強み

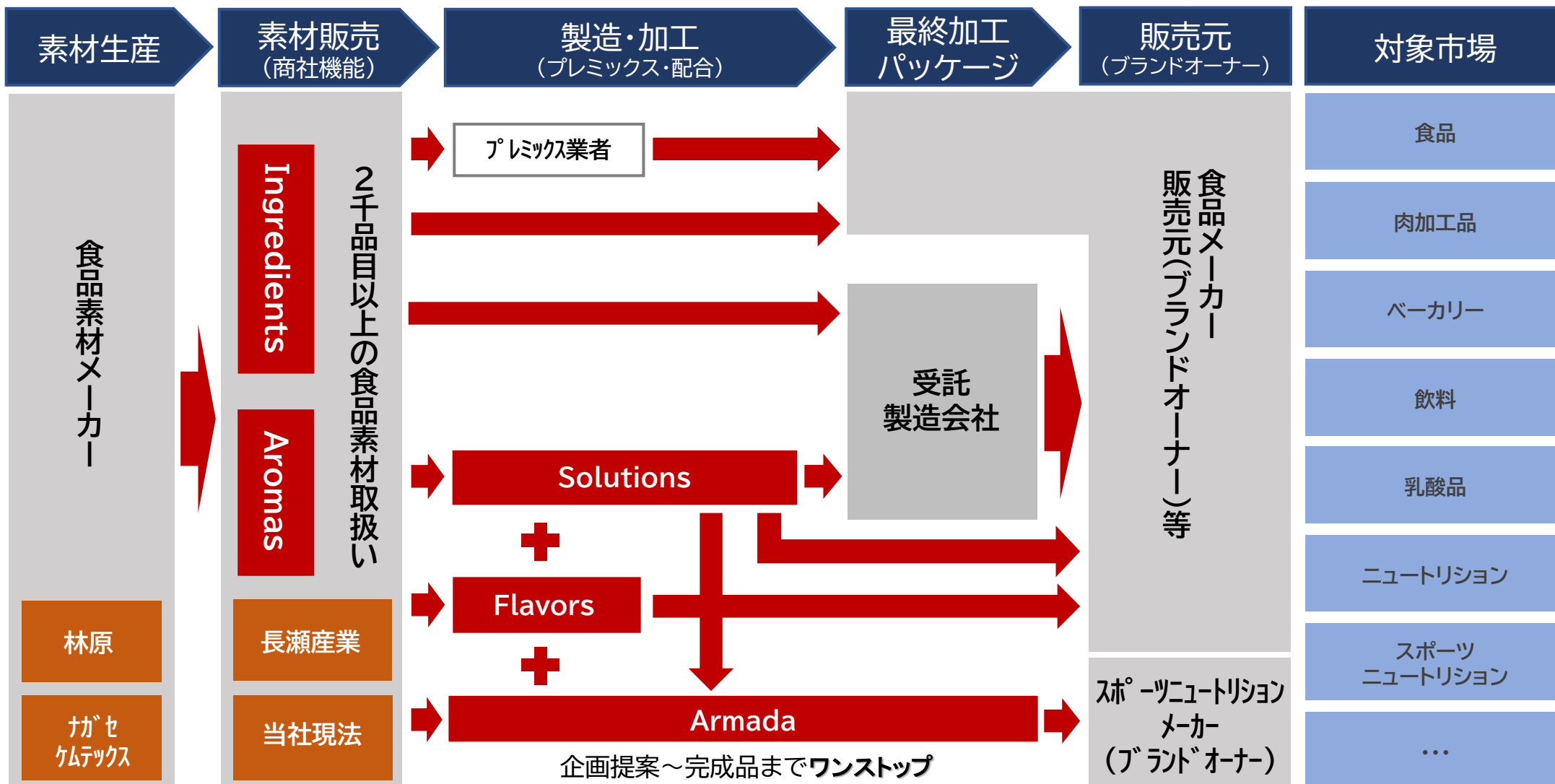
顧客
3000社以上

Prinovaグループの事業概要

	機能	価値	付加価値	競合他社	アプリケーション・主な事業・主要取扱品
Flavors 	製造	専門の調香師が開発する確かなフレーバーを提供(グループ内製造の付加価値)	高 ↑ 機能が充実することで付加価値が高まる ↓ 低	少 ↑ 機能が充実することで競合が少なくなる ↓ 多	【アプリケーション例】 製菓(グミ、チョコ、キャンディ等)、飲料(清涼飲料等)、乳製品(アイスクリーム、ヨーグルト)、製パン(ミックス粉)
Armada 	栄養食品開発、製造ソリューション	企画提案から完成品製造までワンストップでソリューションを提供			【主な事業】 スポーツニュートリションの企画・処方/フレーバー設計・品質保証・レギュレーション対応から最終製品製造まで担う
Solutions 	配合品(Premix)・微細加工(OEM)	プレミックスや微細加工を担い、豊富な素材を組み合わせ、顧客ニーズに合わせソリューションを提供			【主な事業】 液状のカスタマイズプレミックス、アミノ酸プレミックス、ビタミン・ミネラルプレミックス
Aromas 	ディストリビューション	香料などを食品・ニュートリション市場へ安定供給			【主要取扱品】 香料、エッセンシャルオイル、アロマ素材
Ingredients 	ディストリビューション	2000品目以上の食品素材を食品・ニュートリション市場へ安心の品質・価格にて安定供給			【主要取扱品】 ビタミン類、アミノ酸、有機酸、食物抽出物、甘味料、うま味調味料、増粘多糖類、栄養強化剤、リン酸塩類

ビジネスモデル(サプライチェーン)

素材調達からプレミックス・微細加工・最終製品製造までサプライチェーン全体を網羅



顧客3000社以上

2019

8月Prinovaグループ買収

PMI開始

- ・13のWorking Group設置
- ・PMIメンバー約90名結集



ガバナンス構築

- ・経営体制・権限・規程見直し
- ・管理会計・CMS導入
- ・内部統制システムを導入し、有効性を確認

グループシナジー創出

- ・林原、ナガセケムテックス製品の販売開始
- ・原料の集中購買によりコスト削減
- ・アジア展開に向け、各地域と協業開始

営業利益

2019年度実績
約40億円

2020

DXへの取組み開始

- ・マーケティングプラットフォーム構築



- コロナ渦、スポーツジムの閉鎖等を受け、Armada事業は低調に推移
- 一方、健康志向の高まりを受け、食品素材の需要が伸長し、コロナ渦においても増益

2020年度実績
47億円

2021

ガバナンス構築

- ・内部通報窓口設置

M&A

- ・北米有数の甘味料専門ディストリビューター買収

キャパ増強

- ・Armada事業の新工場設立開始

デジタルマーケティング開始

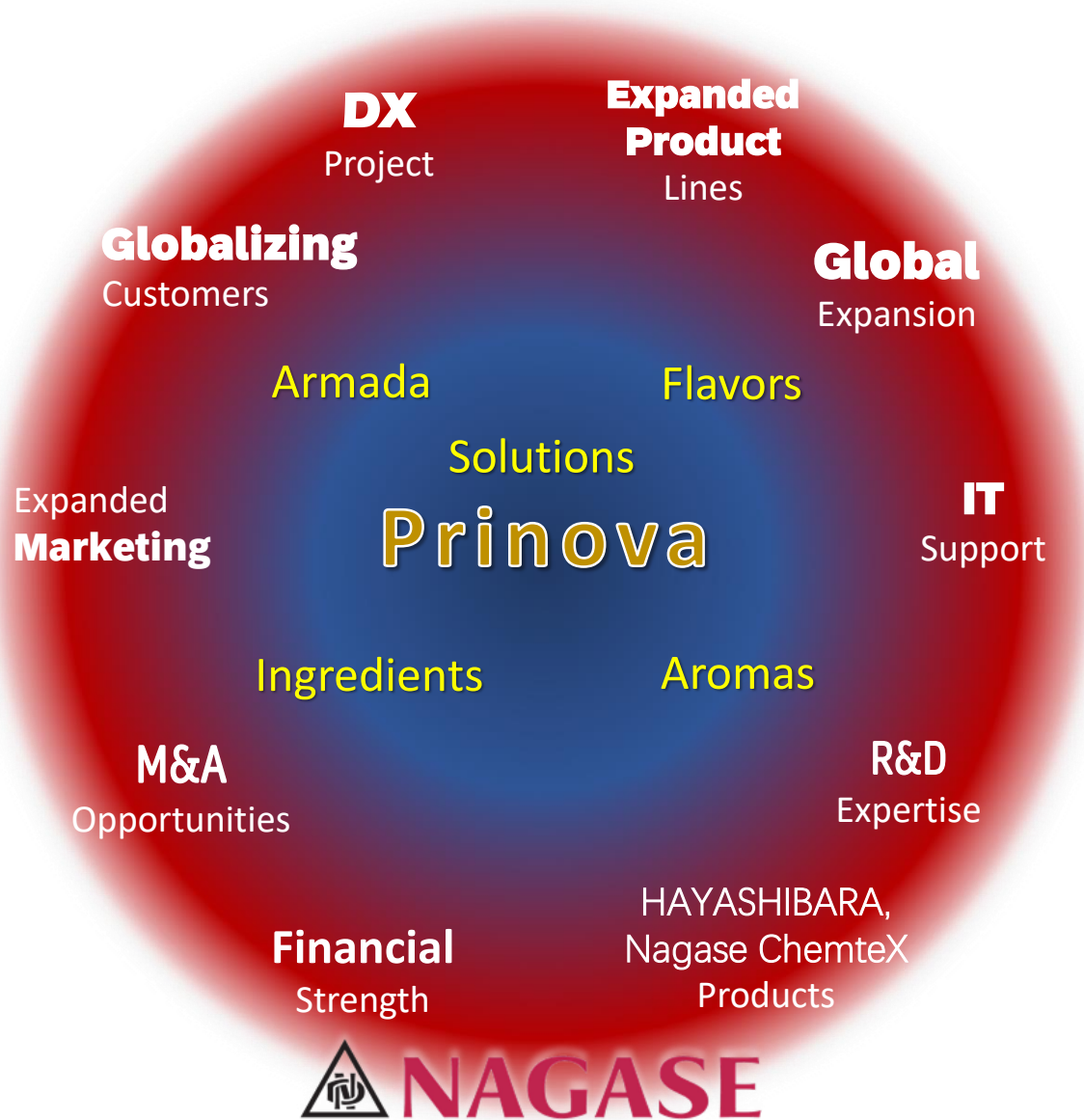
- ・顧客体験型WEBサイトをリリース

- スポーツジムの再開等を受け、Armada事業の業績が回復
- 市場全体として供給難の状況下、Prinovaの調達力・スピード等を活かし、新規ビジネス等も獲得し、業績伸長

2021年度見通し
70億円

※上記数値はPrinovaグループの業績となり、連結時に発生するのれん等の償却費は含みません。
※2019年度営業利益:M&A関連の特殊経費除く

戦略的ビジョン



2032年

(長瀬産業創業200年)

グローバルな製造・販売拠点と垂直統合されたサプライチェーンネットワークを持つPrinovaグループは、お客様と協力し、革新的な技術とこれまでにないカスタマーサービスを提供し、世界に食糧を供給し、より健康的な生活を実現します。

2025年

Prinovaグループは、NAGASEのネットワークとグループ力を活用し、グローバルな成長を続け、市場を拡大し、既存事業に加え買収等も通じて製品提供を強化していきます。

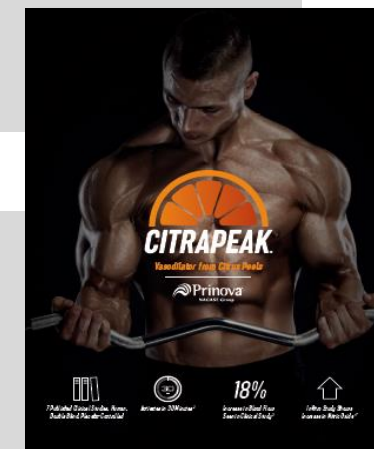
また、オンラインでの存在感を高め、優良サプライヤーとの関係を構築しながら、利益率の高い付加価値サービスにおいて顧客との強力な関係を構築していきます。

製造・加工事業の拡大

- ◆ 欧米市場において既存顧客取引拡大・新規顧客獲得
 - ・グローバル対応力・**調達力**・**スピード**を強みとし、大手ブランドとの取引拡大かつ新規顧客獲得
- ◆ 顧客ニーズに合わせ配合技術・フレーバー技術・製品形態などを拡充
 - ・Armada事業：現状のパウダー・カプセル品に加え、**多種多様な顧客ニーズ**に対応
 - ・Solutions事業：液状・粉体・粒径カスタマイズなど**多種多様な顧客ニーズ**に対応
- ◆ M&A・製造・生産能力増強
 - ・新たな付加価値の獲得、生産能力の増強を推進
 - ・取扱い品目の増加および優良顧客の獲得などにより、ビジネスプラットフォームを拡充

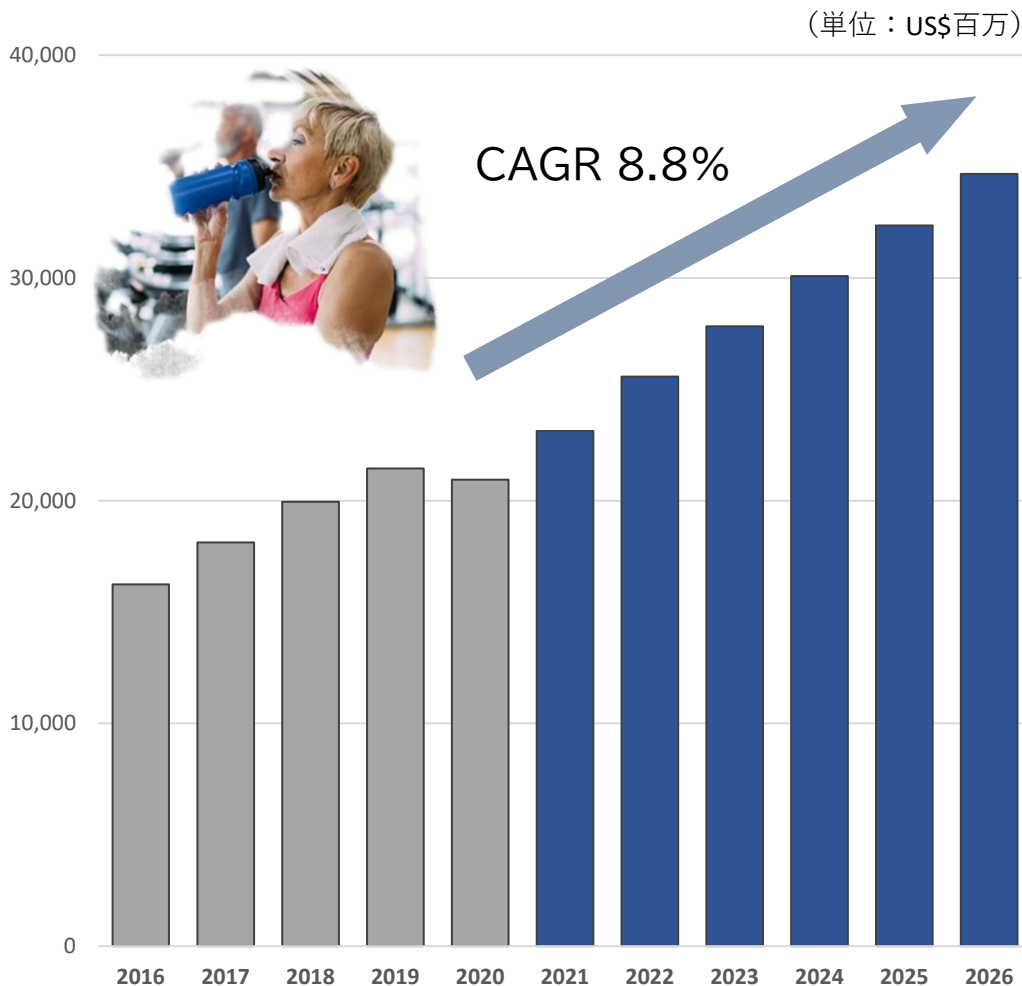
グループシナジー創出

- ◆ NAGASEグループの**林原製品**の欧米での拡販、
林原の機能性素材などのSolutions・Armada事業への展開
- ◆ NAGASEグループのグローバルネットワークを活用し、
Prinova取扱い商品のアジア・中南米での販売を促進



スポーツニュートリション市場はグローバルで伸長していく見通し

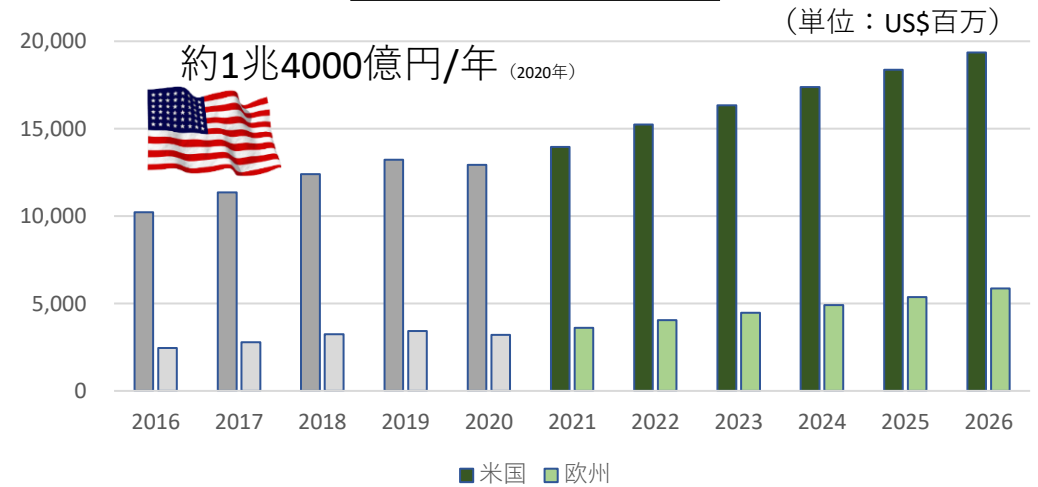
グローバル 市場規模



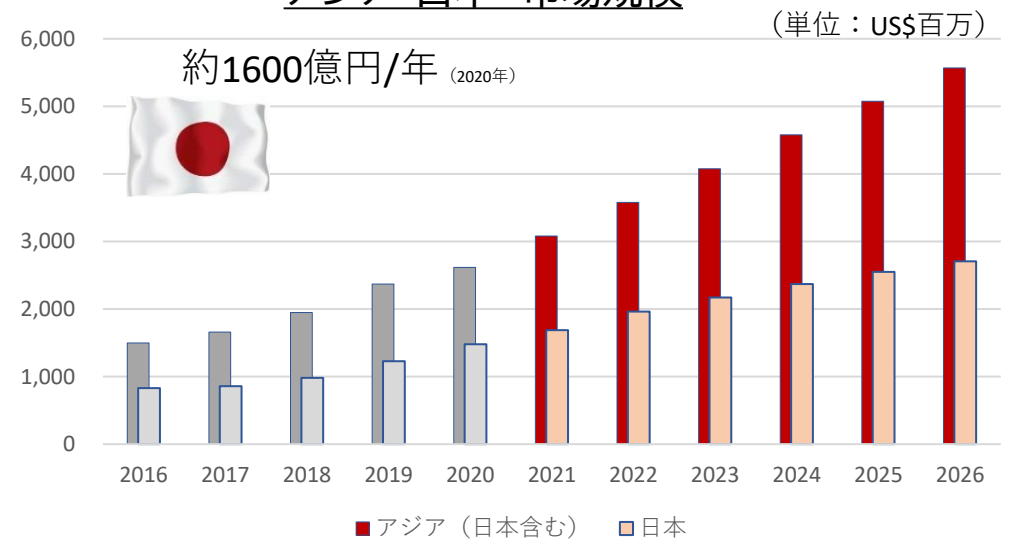
※出展：Euromonitor

※グローバル、欧州およびアジア市場規模については、一部地域を除く

米国・欧州 市場規模



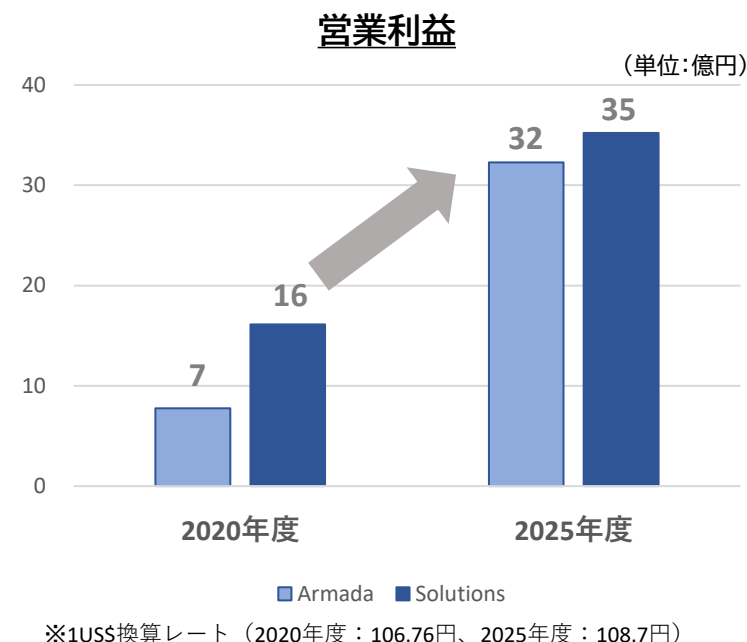
アジア・日本 市場規模



1 米国ユタ州への新工場設立開始(Armada事業) 2022年 春稼働

- ・ 既存の工場(テネシー州)の稼働率が高水準で推移
- ・ スポーツニュートリション市場が拡大していく中、Armada事業の製造能力を増強
- ・ Premix品などSolutions事業へも展開検討

	現工場 (テネシー州)	新工場(Phase 1) (ユタ州)
生産規模	約700MT/月	約700MT/月
売上規模	US\$約190百万	US\$約190百万
面積	約31千㎡	約40千㎡



2 北米において有数の甘味料専門ディストリビューターThe Ingredient Houseを買収

- ・ 食品・飲料メーカー向けに甘味料を販売する北米で有数のディストリビューター
- ・ 飲料関係など大手ブランドの優良顧客を獲得し、飲料領域へのビジネス拡大機会を獲得
- ・ Prinovaグループが取扱う約2000種の素材をさらに拡充させ、Ingredients事業の顧客層を拡大
- ・ 基盤である Ingredients事業の取扱い品目を拡充させることで、Solutions事業およびArmada事業における提案の幅を広げ、提供価値を増強



グループシナジー創出



欧州Solutions事業拠点
(イギリス)

林原製品
ナガセケムテックス製品
日系メーカー取扱い商品



中国Solutions事業拠点
(常州)

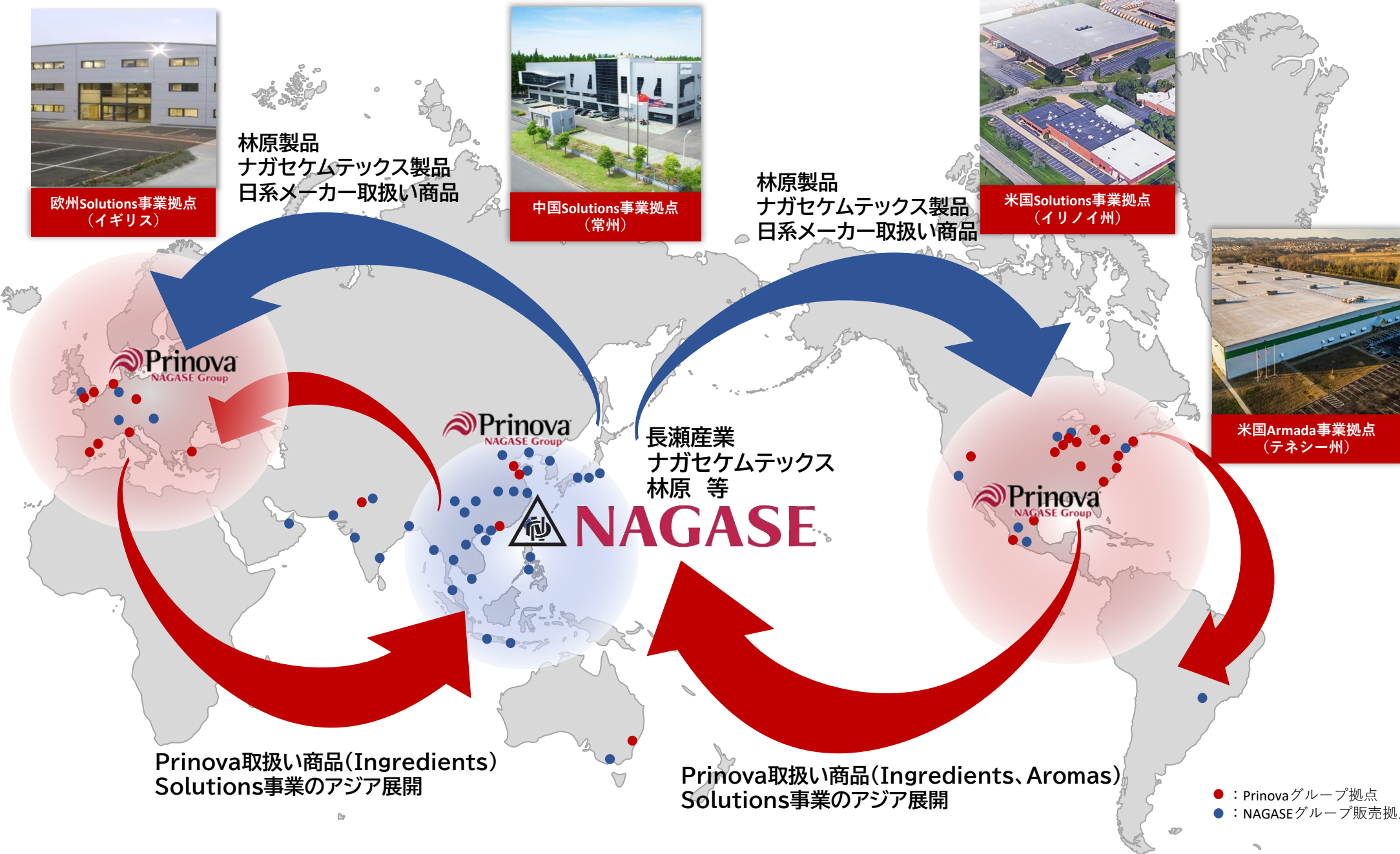
林原製品
ナガセケムテックス製品
日系メーカー取扱い商品



米国Solutions事業拠点
(イリノイ州)

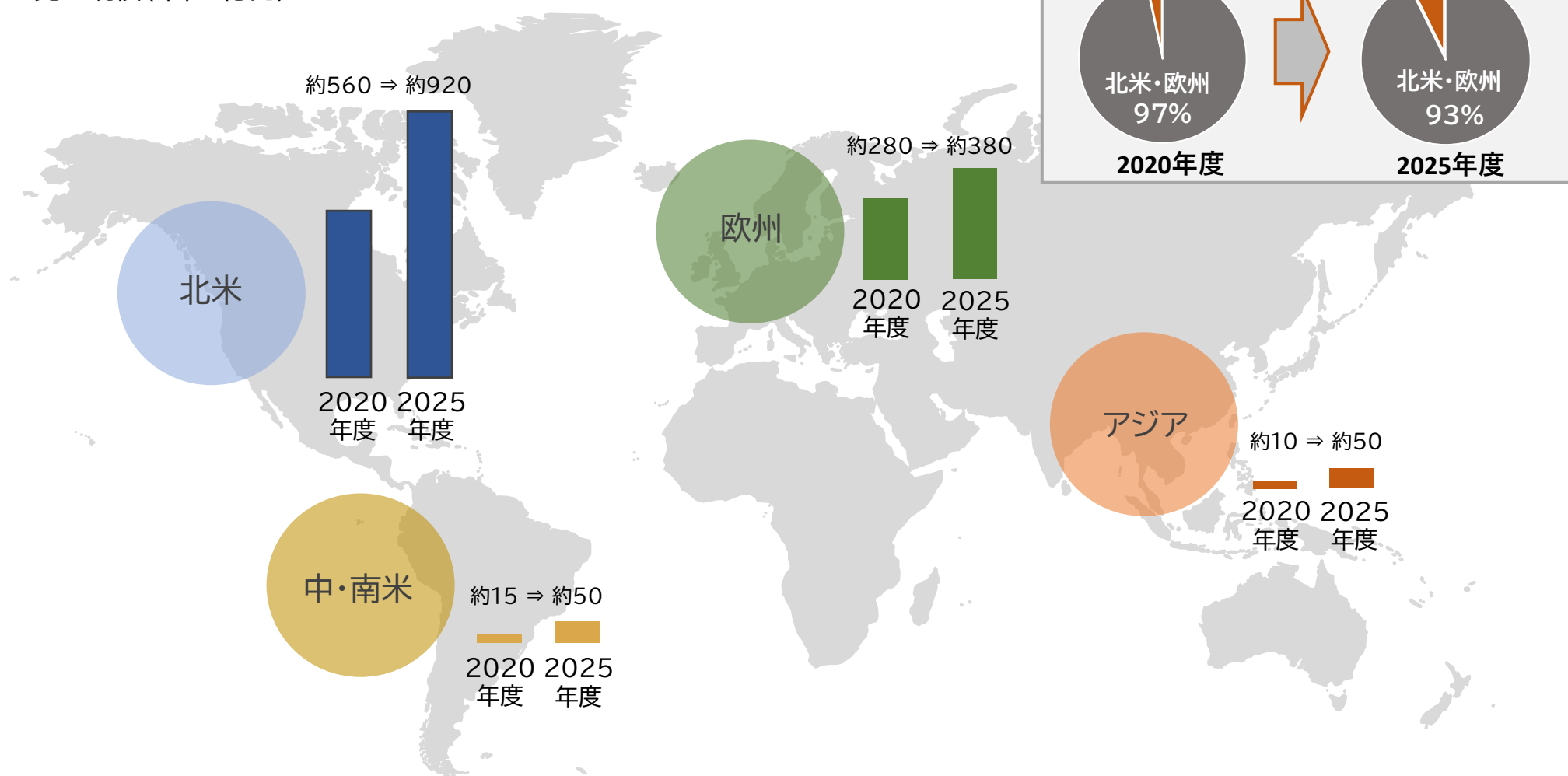


米国Armada事業拠点
(テネシー州)



ACE 2.0期間中、北米・欧州での事業拡大に加え、アジアなど他地域での展開も加速

売上規模(単位:億円)

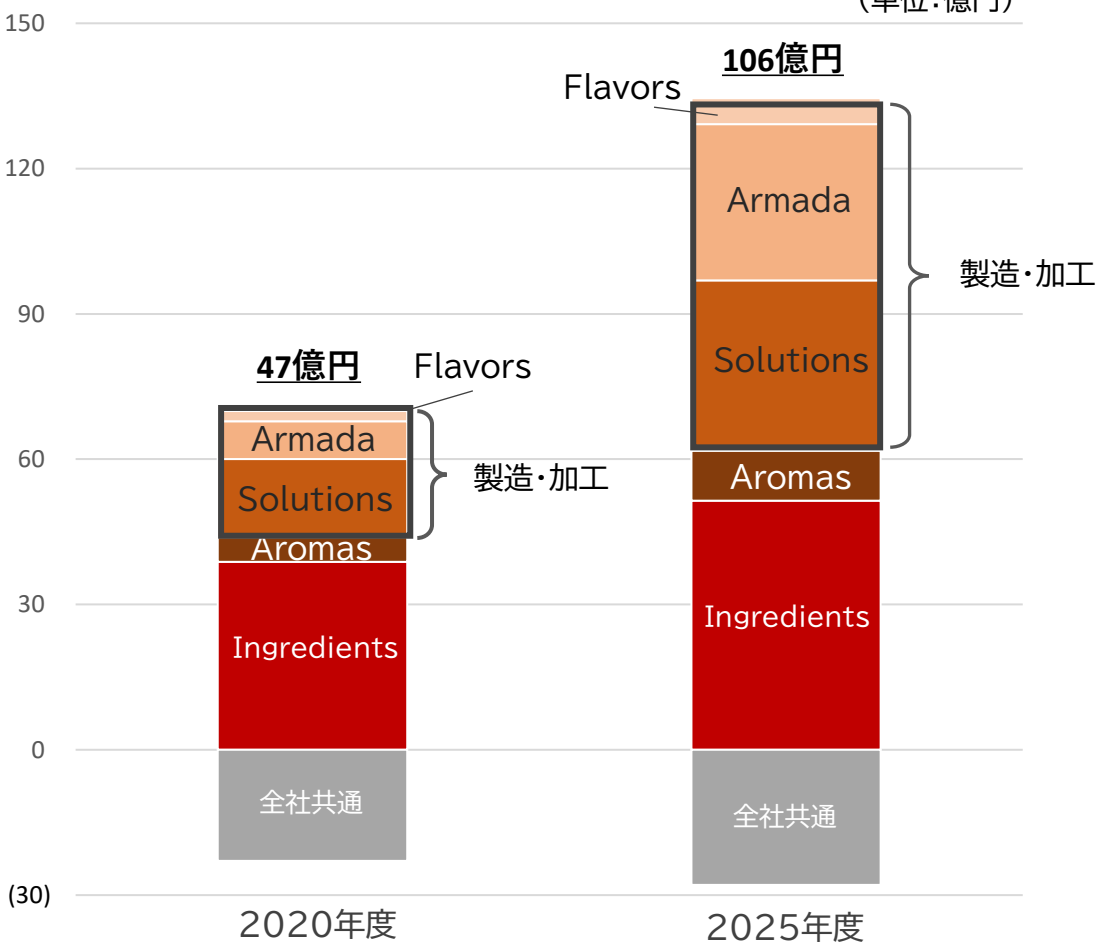


※1US\$換算レート (2020年度: 106.76円、2025年度108.7円)

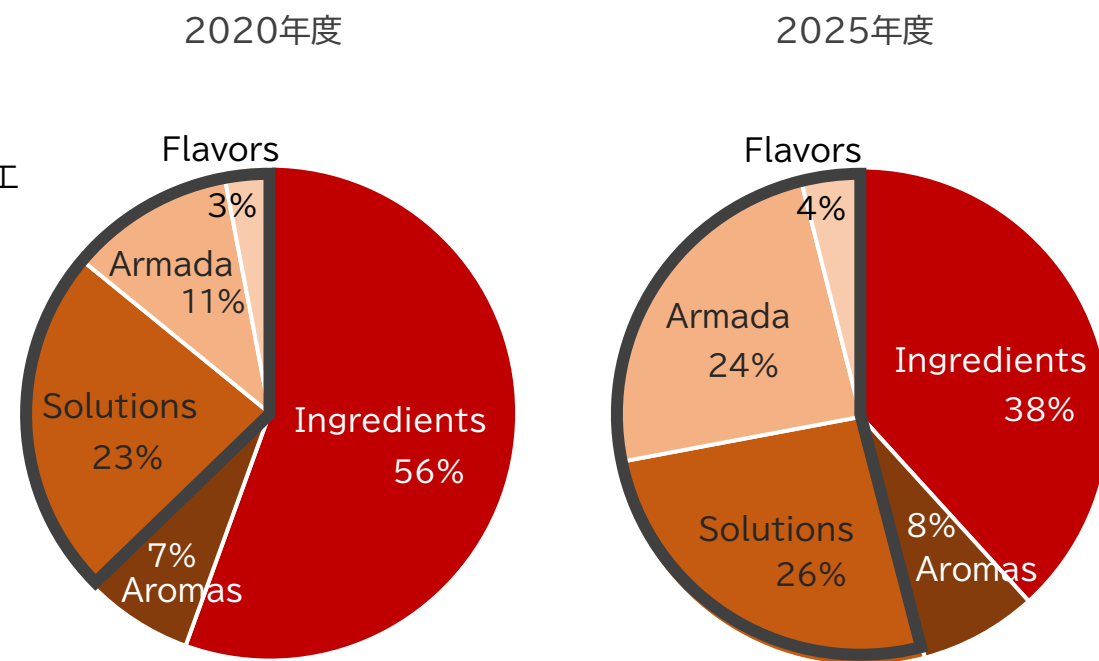
Ingredients事業などのディストリビューション事業を基盤に、
付加価値の高い**製造・加工事業を拡大**

営業利益

(単位:億円)



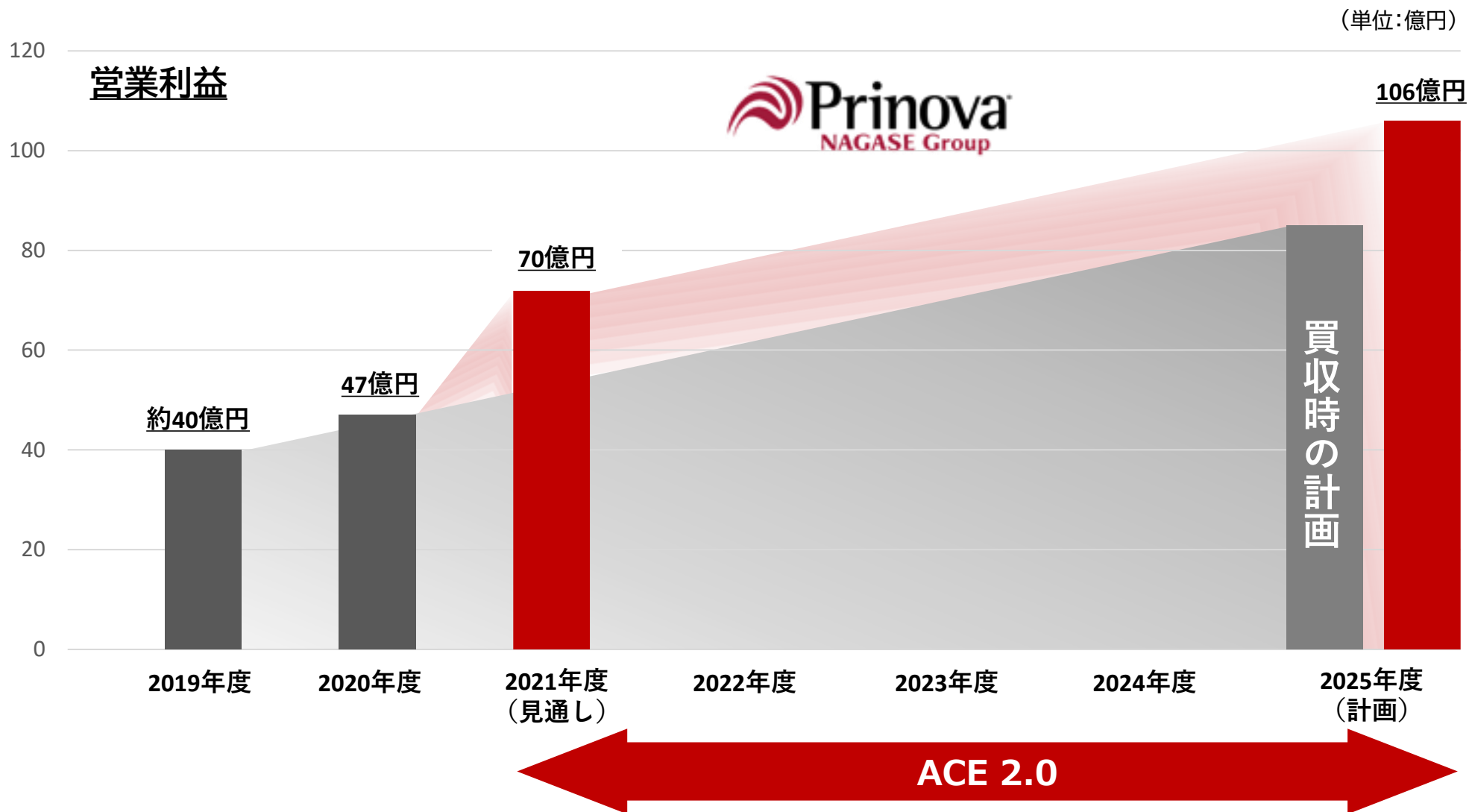
事業ポートフォリオ(営業利益)



Armada、Solutions
製造・加工事業拡大

※上記数値はPrinovaグループの業績となり、連結時に発生するのれん等の償却費は含みません。
※ 1US\$換算レート(2020年度:106.76円、2025年度108.7円)

ACE 2.0期間中に、**営業利益100億円超**を目指す(2020年度比 226%)
買収時の計画以上の成長を見込む



※上記数値はPrinovaグループの業績となり、連結時に発生するのれん等の償却費は含みません。
 ※2019年度営業利益:M&A関連の特殊経費除く
 ※2025年度営業利益:1US\$ = 108.7円で換算しております。



<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2021年11月22日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。